さらに飛躍の年度に

(財)日本ハンドボール協会専務理事
大野　金一

ロスへ向けて新年度始動

新年度はすでに始動しているが昭和58年度を振り返ってみると、最大の課題であり、日本ハンドボール界の悲願でもあったロス・オリンピック出場権獲得は、男子ナショナルチームが見事にその期待に応えてくれた。

一昨年のアジア大会で初めて中国に敗れてアジアの王座を失い、韓国にも1点差の辛勝と、中国、韓国の急成長に、それまで常勝を誇っていた日本男子は、一転して困難な状況に置かれた。

昨年4月カムバックした渡辺強化部長のもと、新しくナショナルチームを引継いだ市原監督、野田コーチらは、短期決戦の構えでナショナル選手を精選し、ヨーロッパ遠征、強化合宿など中味の濃い強化スケジュールをこなして11月のアジア予選に臨んだ。その過程において、ソウルの第3回アジア選手権で韓国に優勝を譲ったが、照準はあくまでもアジア予選に当てられていた。ところが、このソウルでの韓国戦の1敗が影響したか、アジア予選前半の対韓国第1戦ではコチコチになって、動きの素早い韓国に翻弄された。

しかし、選手達はここで何かをつかんだ。そして、後半の韓国戦の雪辱と最終中国戦の大勝へと結びつけたのである。

さて、目指すはロス・オリンピックでの入賞。対ヨーロッパの戦術の研究にこの2月さっそくノルウェー、ユーゴ、西ドイツに遠征した。新しいディフェンスシフトと高村、田口ら若手の成長が、新しい主砲西山をどこまで援護できるかがカギを握っている。

新年度皮切りのジャパンカップ84に、世界の雄ユーゴがやって来た。スウェーデンのトップチームもやって来た。ここで調整をしたあと5月下旬のイタリアカップ、ユーゴトーナメントに遠征して最後の仕上げをする。

女子ナショナルにも薄日

函館市あげての全面的協力で開催された女子のアジア予選では、苦戦を予想されたが善戦し、一筋の光明を見出した。予選後ベテラン引退の後を、昨年のイタリアのテラモ国際トーナメントで優勝したジュニアの選手が埋めている。

しかし、先を走る韓国、中国の姿が見えた、というだけで、この差を詰めるのはなかなか大変だ。大砲が2、3基あれば戦法はまるっきり変って来るだろうが。それにナショナル選手が各チームに散在しているのも強化でマイナスになっている。

強化の目は高校・中学生に

他のスポーツも、一般に選手の低年齢化傾向が見受けられるが、ハンドボールも、昨年度は高校生を中心に全国縦断的にセレクション合宿を実施して若手選手の発掘に努めた。その成果があがって、4月に、男子ジュニアは香港の国際トーナメントに、女子ジュニアは、「ふじクラブ」として台湾のチュンチェンカップに参加している。特に女子ジュニアには、高校生2人と中学生1人が参加している。何れもその将来が期待されている。

男子ジュニアは、大学生、実業団が中心であるが、これもロス・オリンピック後を引き継いでくれる有力選手が揃っている。

今年度から小学生大会

小学生の頃からハンドボールを経験させることは、小さいときからハンドボール感覚を体で覚え込ませる意味もあるが、それよりも、体格、および素質のある者をハンドボールに引き込むことに意義がある。甲子園の豪腕投手を集めたら金メダルも容易であろう。女子も、ソフトボールの大型遊撃手（現実にいるかどうか不知）を集めたら世界制覇は男子の場合よりも簡単であろう。女子にも上手投げの習慣をつけさせるためには、ドッヂボールをハンドボールに切り替えさせなければならない。

昨年度小学生のボール（スポンジボール）の検定、公認をしたので、今年度はブロック毎に小学生の大会を開催をして貰うことになった。その経験を踏まえながら、よりよい小学生用の競技ルールを定め、1、2年のうちには小学生の全国大会の開催にこぎつけたい。

小学生ハンドボールの成否のカギを握るのは、指導者の育成である。当面はスポーツ少年団を拠点にハンドボールの普及を図り、小学校の先生に、自分の目で見、体験して貰うしかない。子供の総合的運動能力を高めるためにハンドボールがいかに優れているか必ずや理解していただけるものと確信している。

協会財権の確立

昨年あれほど盛り上がったアジア予選でも入場料収入は知れたものである。海外チームを招待しても、対戦チームの企業の協賛なしでは収支おぼつかない。したがって、ジャパンカップなど最も見応えのあるナショナルチーム同士のゲームが敬遠されるのが、悲しいかな現実の姿である。

オリンピックに入賞すれば、その競技に人気が湧くというものでもないだろう。やはり地道な普及活動が必要である。そうでなければ人気ばかり先行してオリンピックにも出られないという結果になりかねない。ハンドボールが小学生にも愛されるようになったとき、ハンドボールは、人気があり、しかも強いハンドボールになっていることであろう。そのときになって初めて財政能力も一人前ということができよう。

第7回全国高等学校選抜大会総評

次代を担う諸君のはつらつとしたプレーに大きな期待を抱いた!

全国高等学校体育連盟
ハンドボール部審判部長　金原　至

昭和58年度全国高等学校ハンドボール選抜大会は、ことしも3月24日から5日間、愛知県立体育館に全国9ブロックから男女あわせて50チームが参加して、盛大に開催された。

ロス五輪の年を迎え、日本の男子ナショナルチームが世界の厚い壁に挑む時、次代を担う選び抜かれた若者のはつらつとしたプレーは、ハンドボール関係者にとって大きな期待をふくらませてくれるものであった。

ナショナルチームから学んだこと

今大会を振り返るにあたり、我々はナショナルチームが五輪代表権を獲得した昨年11月20日のあの感激をもう一度かみしめたい。それは市原監督が言うように、まさに選手が一丸となってつかみ取った執念のドラマチックな勝利だった。

我々は、あのナショナルチームの活躍ぶりを単なるギャラリー的立ち場からの喜びとするのではなく、あくまでも同じコートサイドに立つスタッフとして喜びを受け入れ、反省と課題とを新たに考慮していかなければならないと思う。

五輪予選後の市原監督の言葉は、我々コーチングにたずさわる者にとっても教訓となるべき点が多い。要約すると次の3点になる。

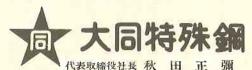
①ハンドボールに対する理論教育の必要性である。いかにナショナルチームのプレーヤーといえども、まだまだ競技そのものの本質を認識していないと言われる。ルールに精通するのはもちろん、各国のハンドボールの歴史、チームの特徴の把握。日本の現状とその対策などの研究がもっともっと必要である。現在取り組んでいる作戦、ゲーム様式もそこに至る歴史的経過、地域的特色といった時間的、空間的な織り合わせによってできているのである。多種多様な技術を幅広く身につけて、場合に応じて処置できるようにするためにも、理論面の追究が重要であろう。その上に立って必要な体力、持久力、集中力(精神力)を自ら養成する心構えと行動が大切である。

②日本のハンドボールは、中途半端だと指摘されている。ヨーロッパの先進諸国を範とするのもいいが、日本人独特のプレーを研究し、日本人でなければできないハンドボールを確立してゆく必要があるのではなかろうか。

③最も気になるのは、闘争心の欠如である。強じんな精神力の養成が急務である。そもそも真のチームワークとは何であるか、互いの傷をなめ合ったり、かばい合ったりするような"認め合うチームワーク"でよいのか。結局は選手一人一人が本当の意味で(自分にきびしく)強くならない限り、チームワークは手に入らないのではないか。勝つための集団としてまい進する時、かばい合うようなレベルであってはならないはずである。昔から心、技、体と言ってきているが、現状では体、技、心になっているように思えてならない。まだまだいじめ抜き、もっともっと肉体の限界に挑み、その中でも発揮できる精神力の養成に心がけねばならない―。

ナショナルチームは、以上記述したような課題をもってロサンゼルスへ向かって走り始めている。それはそのまま、次代を担う高校生諸君についても忘れてはならない重要な事だと思うのである。

全般的に技術は向上

注文はいろいろあるが、今大会を振り返って、全般的な技術の向上は将来へ向っての明るい材料といえる。多くの印象に残った好

ゲームの中でも、男子では準決勝の久留米工大附高（福岡）対浦和実業高（埼玉）戦。女子では決勝の小松市女子高（石川）対山陽女子高（広島）戦を特筆したい。

昨年にひき続き連勝をねらう久留米は序盤で浦和にリードをゆるしながら、前半終了1分前、たて続けに2点を取り同点にもつれ込んだ。大型チーム同士の対戦らしくロングシュートの攻防は後半にはいっても一進一退。やや浦和が優勢かと思われた終了10秒前、執念の久留米が同点に追いつき、勢いに乗って残り5秒前、劇的な逆転勝利をやってのけた。まさに歴史に残る緊迫した、忘れることのできない好ゲームと言っても過言ではない。ミスがなく、しっかりした両チームの組織プレー、走り抜く速攻は見る人を一瞬の気も抜けない緊迫した熱気にひきずり込んだ。

女子の小松市女高対山陽女子高も1点を争うシーソーゲームとなり、同点のまま第2延長にまでもつれ込んだ。昨年の三冠王の余勢をかって連覇をねらう山陽は、セットのコンビネーションプレーやスピード豊かな速攻が持ち味。対する小松は7年連続出場、4回目の優勝にかけて攻守ともに実にまとまったチーム。経過は進むにつれて迫熱化した。同点で迎えた後半残り1分、まず山陽がポストプレーで得たペナルティースローを決め王手、しかし小松もねばって20秒前、相手のストーリングの反則を足がかりに反撃に転じ、8秒前には同点、延長にもつれ込んだ。

延長では両チームともにかたくなって勝負を決定づけるシュートが決まらず再度水入り。稀に見る大熱戦はついに第2延長。一つのミスもゆるされない超高校級の緊迫した試合、繰り広げられる美技の連続に観衆も酔った。大詰め10秒前、フリースローを得た小松がエース和田のシュートを決め、これが決勝点となった。

このほか男子では此花学院高（大阪）、興南高（沖縄）、下松工業高（山口）、女子では水海道二高（茨城）、栃木女子高（栃木）、名短付高（愛知）、暁高（三重）などの活躍も目立った。

基礎的な体力の不足が目につく

ただ、総じてミスがなく、テクニック的に伸びてきている反面、基礎体力、特に下半身、脚力の弱さが目立ったのが気になる。これはかつて冬期はオフシーズンとして体力強化など基礎訓練が十分に行なわれたのに対し、現在は冬期室内選手権などのカードが各地で組まれ、ハンドボールがオールシーズン制になってきたことにも、少なからぬ原因があるように思う。

即戦力として技術面を強調するあまり、大切な部分が忘れられかけているような気がしてならない。心、技、体の内、技術面先行型の変則的練習のひずみが若い選手の将来性をなくしてゆく心配がある。現時点ではそつなくこなしていても、ナショナルチームの一員として世界に真価を問うような選手が育ってこないのがさみしい。

ボールを手にする以前の問題として、苦しく、面白くない練習を毎日、意識的に積み上げなければいけないのではなかろうか、そうした中から精神力、集中力、良い意味での闘争心が育つと思う。

心、技、体の「心」はただやみくもに気合や気迫を入れることや、単に集中力を植えつけることではない、基礎体力をつけ、理論を知り、その上で技術を磨き、そこから自信と余裕、考える余地、創意工夫の機会が生まれる。この一連の活動によってフィードバックされてくる精神的安定感によって真の「心」が養成され、育つものだと思うのである。

奇しくも、我々が平生いだいている課題と反省点をナショナルチーム市原監督の弁の中にかいま見たわけであるが、今後はこうした共通する課題を他人まかせにすることなく、我々の側から微力ながらも改善、解決してゆくことが、ひいては全国のハンドボールの発展につながることを念じつつ、力を尽していかなければならないと思っている。

最後にこの大会を支えて下さった地元の方々と関係各位の御尽力に心からの感謝を申し上げ、大会が成功のうちに終了したことを無上の喜びとする次第であります。

第7回全国高校選抜大会

久留米工大附《男子》堂々の2連覇

小松市女《女子》3年ぶりに女王の座に

全記録

第17回全国高校選抜大会は、3月24日から28日までの5日間、愛知県体育館で男女各25チームが参加して開催された。

今大会は、延長戦、PT戦で勝敗を決するなどの熱戦が見られ、高校生たちの力強い戦いぶりがくり広げられた。

優勝争いは、男子は久留米工大附が昨年に続き2年連続優勝、女子は連覇を目ざす山陽女を名門・小松女が延長戦の末降し、3年ぶり4回目の優勝を飾った。

男子

▽1回戦

氷見（富山）20（11-6、9-12）18 大曲農（秋田）

【大曲】	得
嶋津 (GK)	0
黒川 (GK)	0
藤井	7
高橋	3
草彅	2
細谷	0
木元	1
高橋	5
煙山	0
大阪	0
富樫	0
辻	0
計	18

【氷見】	得
高橋 (GK)	0
山田 (GK)	0
瀬戸	1
徳前	3
岩上	6
山本	1
春木	6
森	2
大江	1
多胡	0
川渕	0
安田	0
計	20

（FP 審・川島 森）

20 (2) PT (1) 18

○…氷見は1分過ぎに岩上がロングシュートを決め先行する。その後氷見は、大曲のキーパーの好守によってシュートを阻まれた。一方、大曲は氷見の堅いディフェンスにあい立ち上がりの硬さもあったのか攻めきれず両者硬直状態で進む。そして7分過ぎ大曲の高橋直がポストからのカットインでディフェンスをわり1点を返すがすかさず氷見もポストシュートでリードすると10分過ぎまでに3点を連取し、このままのペースで進むかに見えたが、大曲の藤井のディフェンス前からのシュートで追撃をはかる、そしてその後は氷見は岩上、徳前、春木らが加点していき、大曲が高橋直、藤井の活躍で追っていく試合展開となり11-6で氷見リードにて前半を終る。

後半立ち上がり、1分に大曲の木元がポストシュートを決めるが氷見もその直後、徳前、山本、春木らで3点を連取しつき離しにかかった。しかし大曲も高橋直、高橋明、藤井、草彅らが速攻と相手ディフェンスの間からのスタンディングシュートが決まり、5点を連取して盛り上がるが、氷見も春木らの活躍で5点連取して再びつき離す。大曲も21分すぎには5点連取して追い上げたが、2点差で氷見が逃げ切った。

富士（静岡）21（8-7、13-3）10 那賀（和歌山）

【那賀】	得
寺本 (GK)	0
谷沢 (GK)	0
西木	0
小守	1
岩崎	0
武田	0
飛渡	1
上野	2
平松	6
上野	0
藤井	0
実宝	0
計	10

【富士】	得
井出 (GK)	0
酒井 (GK)	0
澤山	0
岡村	0
長谷川	4
大石	2
斉藤	0
佐野	5
増田	6
大草	1
杉林	3
鈴木	0
計	21

（FP 審・中根 秋山）

21 (2) PT (1) 10

○…富士のスローオフで始まった前半は立ち上がり、4番長谷川の速い動きからのシュートが決まり、リードした後も速攻、高い打点からのシュートなどで富士が7分3―0とした。那賀は富士の早いつめのディフェンスにあい決め手を欠いたが、一年生平松のタイミングのよいシュートが決まり出し残り7分には5―5の同点においついた。残り5分は富士の速い攻めと那賀の平松のシュートで一進一退の攻防をくり返したが、残り1分富士は長身増田のフリースローからのシュートが決まり8―7で前半を終了した。

後半、那賀の平松のシュートが決まらずリズムを崩した那賀はミスが続いた。一方、富士は持ち前の速い攻めで得点を重ね一方的なゲームになった。残り7分まで那賀は無得点におさえられ富士が16―7とした。結局このペースが続き那賀は立ち直れないまま21―10で富士が快勝した。（高須裕二）

日体荏原（東京） 24（12―7、12―12）19 坂出工（香川）

得	【荏原】		【坂出】	得
0	大場	GK	谷井	0
		GK	中村	0
6	長原	FP	山本浩	8
7	金井	FP	井上	1
4	佐藤	FP	青木実	3
4	田代	FP	藤本	0
3	安達	FP	坪田	4
0	河上	FP	三野	0
0	清瀬	FP	中西	0
0	田城	FP	山本直	0
		FP	青木一	3
		FP	井原	0
24	(2)	PT	(1)	19

審・斉藤 千野

○…ゲーム序盤、両チームとも緒戦の堅さからかディフェンスの荒さが目立つ。日体荏原は2分、3分とたて続けに退場苦しい立ち上がりとなる。しかし、荏原はこの間、坂出・山本のミドルシュート1点に失点をとどめ、攻撃では4人ながら田代がサイドシュートを決めて切り抜けた。その後は荏原ペースで進められる。速攻、スカイプレーなどで加点し、守りでは素早いチェックで坂出にボールを回させず前半を12―7で折り返す。

後半に入ってもペースは変わらず坂出は荏原のスピードあるプレーに対しついていくのがやっとの状態。キャプテン山本が高打点のシュートを決めて反撃に出るのだが、全体的に攻撃がセンターに片寄り荏原ディフェンスをくずすには至らない。終盤になって坂出はサイド、ポストなどのコンビを見せ追いすがるが時すでに遅く、24―19で日体荏原が勝利を収めた。

久留米工大附（福岡） 22（11―1、11―7）8 総社（岡山）

得	【久工大】		【総社】	得
0	井上	GK	須田	0
0	坂本	GK	福武	0
6	田中	FP	中塚	2
3	甲斐	FP	小野	1
0	松尾	FP	長代	0
0	小池	FP	花水	2
2	村田	FP	浅沼	2
7	石丸	FP	石原	0
3	大坪	FP	東	1
1	誉田	FP	大森	0
0	嶋田	FP	山本	0
0	山口	FP	竹内	0
22	(0)	PT	(3)	8

審・工藤 川合

○…久留米工大附は前半の立ち上がりやや緊張感もあったが多彩な攻めで確実に得点を重ねゲームを一方的なものとした。一方、総社は10分までは2番中塚を中心になかなかいい攻撃で久留米工大附を苦しめたが、久留米工大附のキーパー井上にシュートを阻止され結局得点はペナルティーの1本だけとなった。

後半に入り、総社は中塚以外がシュートを打つようになり得点を重ねたが、久留米工大附の落ち着いた試合運びの前に22―8で完敗した。（岩崎）

松山北（愛媛） 18（8―9、10―5）14 東宇治（京都）

得	【松山北】		【東宇治】	得
0	野本	GK	吉岡	0
0	松本	GK	藤岡	0
0	長野	FP	福本	0
0	三浦	FP	山本	6
9	篠原	FP	松本	0
2	沖永	FP	中川	2
0	壺内	FP	鍋谷	0
1	古茂田	FP	向井	2
6	中屋	FP	近藤	0
0	神山	FP	上西	2
0	松岡	FP	八田	0
0	和田	FP	長谷川	2
18	(0)	PT	(2)	14

審・大原 北山

○…左腕エースを中心とした同型タイプチームの対決となった。立ち上がり、両チームともやや堅さがみられ決定打に欠けたが、開始3分過ぎからボールが回り始め一進一退の好ゲームとなった。東宇治は3番山本を中心に、一方松山北は7番古茂田へのマークが激しいとみるや、ポスト、サイドからの揺さぶりから必死に食い下がるゲーム展開となり、前半は9―8と東宇治リードで終了。

後半に入り、10分過ぎから松山北4番篠原の速攻が2本連続して決まり、初めて試合の主導権を握った。その後も中屋らの活躍で着々と加点し、4点差とし試合を決定づけた。東宇治も、山本のロングで対抗したがあと一歩及ばなかった。松山北のキーパーの好守と古茂田が不調とみるや全員が意欲的にゴールを狙ったのが勝因であろう。いずれにしても高校生らしい好ゲームであった。

下松工（山口） 33（16―3、17―10）13 四日市工（三重）

得	【下松工】		【四日市】	得
0	中村	GK	森	0
0	松村	GK		
11	白坂	FP	伊藤	0
11	平野	FP	広瀬	1
1	長浦	FP	窪田	0
3	中川	FP	秦	0
4	坂口	FP	久保	3
2	久本	FP	中山	0
0	古賀	FP	真島	8
0	松本	FP	吉見	1
1	前田	FP	岡崎	0
0	小林	FP		
33	(4)	PT	(3)	13

審・秋永 瀧

○…前半立ち上がり両チームとも速い攻防を続けるが下松工が速攻で3点先取した。四日市工は下松工の長身坂口、平野のシュートブロックにあい思うように得点できない。10分下松工キャプテン白坂が反則で退場するが、他の5人の速い動きでカバーし逆に速攻、スカイプレー等でさらに得点を重ねてゆく。四日市工はオフェンスに決め手がなく、下松工の大きいディフェンスに守られてしまう。残り8分四日市の強引なシュートが決まり反撃のきざしが見えたが下松工もフォーメーション、スカイプレーで四日市を寄せつけない。下松工ペースのまま前半を終了した。

後半四日市工はペースを変えようとフォーメーションプレーを試みるが、今一歩うまくいかず逆にミスを誘発し下松工の速攻を許す形となってしまった。残り5分四日市工のシュートがようやく決まり出したが下松工の速いペースを変え得ず下松工の完勝に終った。

此花学院（大阪） 21（14―8、7―8）16 岡崎城西（愛知）

得	【此花】		【城西】	得
0	丸山	GK	島田	0
0	岡田	GK	井立	0
7	君島	FP	草野	3
6	吉川	FP	赤松	4
6	西岡	FP	畑田	3
2	泉	FP	市川	1
0	江崎	FP	中島	4
0	金沢	FP	蜂屋	1
0	平山	FP	小栗	0
0	松永	FP	青木	0
0	間戸場	FP	加藤	0
0	藤本	FP	小林	0
21	(1)	PT	(2)	16

審・杉本 杉山

○…両チームとも速攻を武器にしたチーム同志の対戦となった。前半立ち上がりは、岡崎城西・赤松、此花学院・西岡のロングシュートで互角の戦いとなった

が、パワーに勝る此花学院は8分頃から君島、吉川、西岡と連続得点をあげ除々に引き離し15分までに3点差のリードとなった。その後も岡崎城西のまずい攻めとキーパー丸山の好守によって前半を14―8の6点差で折り返した。

後半に入っても此花学院のリズムはくずれず3点連取した。岡崎城西は3分過ぎから2番君島にマンツーマンにつき反撃に転じたが、お互い点の取りあいとなり差は縮まらなかった。さらに岡崎城西は19分過ぎから4番西岡にもマンツーマンについた。その結果此花学院の攻撃のリズムがかわり、岡崎城西本来の速攻が出るようになり得点を重ねたが、前半の点差が響き21―16此花学院が勝利を収めた。(細井和夫)

富岡（群馬）26（15―6, 11―7）13 釧路湖陵（北海道）

【湖陵】	得		【富岡】	得
中井	0	GK	斎藤	0
池田	0	GK	黒沢	0
神	3	FP	土屋	5
中村	4	FP	浅香	6
前田	1	FP	松原	3
石橋	2	FP	金井	5
津村	1	FP	東崎	1
木村	0	FP	井森	0
杉山	0	FP	今泉	2
柴田	0	FP	加藤	4
松沢	0	FP	小金沢	0
国安	0			
13	(0)	PT	(4)	26

（審・岡本、清水）

○…小柄ながらスピード感あふれる富岡は、4番松原、5番金井を軸にシュートがよく決まり着実に得点を重ね前半15―6と試合を有利なものとした。一方、釧路湖陵は、14分までは7―5とよく食い下がったがその後得点できず、またディフェンスが富岡のスピードについていけずに退場が続出し大差をつけられた。

後半に入っても、同じように富岡は早いパス回しからの2番土屋らのシュートがよく決まり、試合を終始有利なものとし、結局26―13と圧勝した。釧路湖陵は一年生を主体としたチームながらよく最後まで善戦し気持のよい好ゲームにしてくれた。(岩橋)

長崎日大（長崎）21（10―8, 11―8）16 聖光学院（福島）

【聖光】	得		【日大】	得
小野	0	GK	日野原	0
		GK	辻	0
片平	0	FP	前田	2
佐藤	0	FP	杉谷	2
伊勢	1	FP	松村	6
土屋	1	FP	島	2
斎藤	2	FP	吉川	0
武田	2	FP	森	7
佐藤	6	FP	高村	2
小島	4	FP	佐藤	0
山岸	0	FP	松下	0
菅野	0			
16	(4)	PT	(2)	21

（審・島崎、福田）

○…長崎日大がロングシュートを決め試合が始まった。その後も、長崎日大は4番松村、7番森を中心として上からの攻撃で加点。一方、聖光学院は、ポスト、サイドからの多彩な攻めで反撃したものの、長崎日大の2点リードで前半を終了。

後半5分、聖光学院は9番小島がサイドシュートを決め1点差としたが、長崎日大は、相変らず4番松村、7番森のロングシュートがよく決まり点差をひろげて快勝した。(唐沢立夫)

▽2回戦

浦和実（埼玉）26（13―11, 13―9）20 氷見

【氷見】	得		【浦和実】	得
高橋	0	GK	石井	0
山田	0	GK	長山	0
瀬戸	1	FP	新井	7
徳前	4	FP	清田	4
岩上	9	FP	猪瀬	6
山本	1	FP	高橋	3
春木	2	FP	滝沢勝	4
森	3	FP	滝沢哲	2
大江	0	FP	二階堂	0
多胡	0	FP	田島	0
川渕	0	FP	鈴木	0
安田	0			
20	(2)	PT	(2)	26

（審・斉藤、千野）

○…男子2回戦第1試合は、伝統校氷見と新鋭浦和実の対戦となった。前半は両チームとも立ち上がりから持味を十分に発揮し点の取り合いになり、5分過ぎからは一進一退の展開が続いた。しかし、突進力にやや勝る浦和実は前半終了間際に速攻などで連続得点をあげ2点リードで終了した。

後半、浦和実は高橋のロング、猪瀬のカットインなどで5分までに3連続得点をあげ5点差まで拡げた。氷見も岩上、徳前らの巧シュートで食い下がり、17分には2点差まで追い上げた。その後、氷見の退場者などの間に浦和実は着実にシュートを決めじりじりと引き離し勝利を決めた。(細井和夫)

富士 15（8―3, 7―9）12 函館有斗（北海道）

【函館】	得		【富士】	得
小野	0	GK	井出	0
野村	0	GK	酒井	0
近	1	FP	澤山	0
清水	0	FP	岡村	0
鳥潟	4	FP	長谷川	3
道下	2	FP	大石	2
高橋	1	FP	斉藤	0
小野寺	4	FP	佐野	3
宮本	0	FP	増田	5
三上	0	FP	大草	0
神	0	FP	杉林	2
富樫	0	FP	鈴木	0
12	(4)	PT	(2)	15

（審・小林、高橋）

○…前半5分は両チームともにお互いの動きを見てフリースローが多いが点につながるケースが少なかった。8分以後、富士のディフェンス特に8番増田のシュートカットからサイドマンの速攻と増田自らのロングシュート等で連続5得点をあげ試合内容を一方的なものにした。函館有斗は、攻め手を欠き単調な試合運びとなり、エース富樫に集まるボールもキーパー正面をつく場合が多く12分間点が止まる。

後半、函館有斗は立ち上がりボールを良く回して点につなげることから、ディフェンスにも足がつき相手チームの動きについて行くことが出来、時折ボールマットから加点につなげ試合内容を盛り上げるも、富士のセット攻撃から粘り強くシュートに結びつけられるために逆転するまでには及ばなかった。

後半動きは出たものの両チームともにディフェンスに甘さが出た。(永田裕孝)

桜台（愛知） 30（12－11、12－13、4－0、2－3）27 日体荏原

得	【桜台】		【荏原】	得
0	野坂	GK	大場	0
0	小塚	GK		
8	加藤	FP	長原	7
9	津兼	FP	金井	2
3	山田	FP	佐藤	1
1	澤田	FP	田代	6
4	山下	FP	安達	11
5	塩坂	FP	河上	0
0	長谷川	FP	清瀬	0
0	村田	FP	田城	0
0	大津	FP		
30	(3)	PT	(4)	27

（審・秋永、瀧）

○…ともに激戦地区を勝ち抜いてきた名門校同志の対決となった。序盤戦は、桜台のスピードあるカットインからの攻撃とサイドシュートが有効的に決まり、有利に試合を進めた。前半10分過ぎから日体荏原6番安達の踏んばりにより1点差へと詰め寄り前半を終了。

後半に入り、日体荏原はエース長原を中心に攻守ともまとまり10分までに7点をあげ逆転に成功しリズムに乗るかにみえた。しかし、14分、日体荏原・金井の失格によりディフェンスが完全に崩れてしまい苦しい戦いとなった。一方、桜台は、キャプテン塩坂をコントロールタワーとして、加藤、津兼が要所で決め終了間際加藤のロングで同点として、延長へもつれこんだ。

延長に入り、桜台は、速攻とコンビのとれたカットインプレーが冴え4点連取し日体荏原を突き放し、試合を決定づけた。いずれにしても、両チームともよく洗練されており、持てる力を十分に出し切った好ゲームであった。

久留米工大附 37（17－6、20－9）15 添上（奈良）

得	【久留米】		【添上】	得
0	井上	GK	田澤	0
0	坂本	GK	石原	0
8	田中	FP	森本	5
12	甲斐	FP	橋本	1
3	松尾	FP	福西	5
0	小池	FP	乾	1
6	村田	FP	藤本	2
5	石丸	FP	山中	0
1	大坪	FP	岩本	1
0	誉田	FP	吉迫	0
1	嶋田	FP		
1	山口	FP		
37	(4)	PT	(0)	15

（審・坂倉、細井）

○…添上は、小柄ながらきびきびとしたスピードのある動きで左腕福西の横からのロングシュートと森本のポスト攻撃で善戦。一方、久工大附は、立ち上がり調子に乗り切れず苦戦したが、前半10分過ぎから3番甲斐を中心として波に乗り速い攻撃で得点を重ね17－16で前半を終了した。

後半に入って、添上、速攻と久工大附のディフェンスのすきをつく攻撃で得点。また、久工大附は相変らず素早い動きで攻撃の手をゆるめず37－15のスコアで大勝した。（伊藤文彦）

興南（沖縄） 19（8－5、11－8）13 松山北

○…似たようなチームカラー同志の対戦となったが、立ち上がり4分興南は、早いパス回しから10番玉城がサイドで決めて先行し、7分に速攻、9分にペナルティで3－0とした。一方、松山北は10分に始めてペナルティで得点し、その後両チーム同じような点の取り合いとなったが、興南は6番宮城のロング、10番玉城のサイドシュートなどで加点し、松山北は8番中尾のポストプレーなどで加点し前半を8－5とした。

得	【興南】		【松山北】	得
0	平良康	GK	野本	0
0	比嘉薫	GK	松本	0
0	宮城守	FP	長野	1
3	具志堅	FP	三浦	1
0	平良正	FP	篠原	1
3	宮城一	FP	沖永	2
1	比嘉敏	FP	壺内	1
1	上原昌	FP	古茂田	4
3	上原雅	FP	中屋	3
8	玉城	FP	神山	0
		FP	松岡	0
		FP	和田	0
19	(3)	PT	(2)	13

（審・大原、北山）

後半に入りペースを摑んだ興南は、着々と加点しリードを広げ勝利をものにした。又、この試合を通じ興南のキーパー比嘉の再三の好守と10番玉城のサイドシュートの確実性と松山北の7番古茂田のロングが光った試合であった。（細川純一）

下松工 26（12－10、14－12）22 二松学舎大附沼南（千葉）

○…速い動きとパス回しに正確さを欠きお互いに相手ミスからの点の取り合いとなるが、下松工の速い動きを沼南がよくディフェンスしていると言った展開であった。沼南が先手先手と進めるが下松工も1分以内に追いつくといった具合であったが、14分のPT以後流れが逆になり今度は下松が先手を取り沼南がすぐに追いつく互角の戦いであった。このまま終了するかに見えた残り1分間に2本のペナルティを得、前半下松がリードする。

得	【下松工】		【沼南】	得
0	中光	GK	富田	0
0	松村	GK	斉藤	0
11	白坂	FP	提	2
7	平野	FP	佐藤	8
1	長浦	FP	高橋	1
1	中川	FP	二瓶	3
5	坂口	FP	染谷	4
1	久本	FP	井口	0
0	古賀	FP	高野	0
0	松本	FP	康本	4
0	前田	FP	島村	0
0	小林	FP	増田	0
26	(3)	PT	(0)	22

（審・中根、秋山）

後半立ち上がり5分は同じような展開であったが、それ以後沼南は染谷、康本の連続4得で同点に追いつくも逆に3連続失点を許してからは、下松工・白坂のゲームの流れを変える3連続得点で試合が運ばれた。

しかし、沼南も残り1分で3連続得点をあげ最後まで試合を盛り上げた。両チームのコート狭しと走り回るプレーに好感がもてた。（永田裕孝）

此花学院 27（16－4、11－12）16 富岡

○…試合開始直後から、スピード、パワー、ジャンプ力に勝る此

得	【此花】		【富岡】	得
0	丸山	GK	斉藤正	0
0	岡田	GK	黒沢	0
9	君島	FP	土屋	1
1	吉川	FP	浅香	5
6	西岡	FP	松原	3
6	泉	FP	金井	3
1	江崎	FP	東崎	0
3	金沢	FP	井森	0
1	平山	FP	今泉	1
0	松永	FP	加藤	3
0	間戸場	FP	小金沢	0
0	藤本	FP	斉藤隆	0
27	(0)	PT	(2)	16

（審・大塚、佐分）

花は、速攻、セットで点数を重ねていった。それに対して富岡は、スピードのある攻撃で攻めたが、此花のキーパーの好守にはばまれチャンスをなかなかものにできなかった。前半15分過ぎより富岡のミスが日立ち、そのミスを確実に点数につなげていった此花が前半を圧勝した。

後半に入っても、早いペースで此花が試合を進めていったが、後半15分ごろより荒さの出て来た此花のディフェンスに対し、富岡は持ち前のスピードで相手をずらしての3番浅香、4番松原のサイドシュートが決まっていったが、自力に勝る此花が振り切った。（若山和彦）

北陸（福井） 22（11－9、8－10、1－2、2－1）22 長崎日大

○…前半立ち上がり、北陸はミスが日立ち長崎日大に先行されるが、10分過ぎから調子をあげ全員得点し、前半を2点リードで折り返した。

後半2分、長崎日大は同点としその後も2度のリードを許すが、後半終了直前に追いつき延長とした。

延長前半は長崎日大がリードを奪った。後半、北陸が一旦は追いつき、リードするが、試合終了直前長崎日大がシュートを決めてペナルティコンテストとなった。ペナルティコンテストも3－3と決着がつかずサドンレスとなり、北陸キーパーの好守により5－4で北陸が勝利を収めた。（唐沢立夫）

得	【北陸】		【日大】	得
0	城地	GK	日野原	0
0	竹沢	GK	辻	0
5	大久保	FP	前田	3
2	沢崎	FP	杉谷	3
1	竹山	FP	松村	4
5	福村	FP	島	1
4	川上	FP	吉川	0
1	小野田	FP	森	9
0	宮川	FP	高村	2
3	斉藤	FP	佐藤	0
1	松田	FP	松下	0
0	増田	FP	上妻	0
22	(3)	PT	(4)	4

（審・横井、岩永）

▽3回戦

浦和実 29（13－6、16－7）13 富士

得	【浦和実】		【富士】	得
0	石井	GK	井出	0
0	長山	GK	酒井	0
9	新井	FP	澤山	0
3	清田	FP	岡村	0
1	猪瀬	FP	長谷川	1
3	高橋	FP	大石	2
9	滝沢勝	FP	斉藤	0
3	滝沢哲	FP	佐野	2
0	二階堂	FP	増田	4
1	田島	FP	大草	2
0	鈴木	FP	杉林	2
		FP	鈴木	0
29	(3)	PT	(0)	13

（審・杉本、秋永）

○…前半5分までは富士、浦和ともに個性を生かし互角の戦いであったが、個々の決定力に勝る浦和が6番滝沢、2番新井の外からのシュートで着実に得点を重ね、点差を広げていった。富士もよく攻めるが浦和の厚い壁とキーパーの好守にあいなかなか得点できないまま、7－16と一方的に浦和ペースで前半を終了する。

後半に入っても、早々に4連続得点するなど浦和は攻撃の手をゆるめない。それに対し、富士も必死に反撃を試みるが前半同様に浦和ペースで試合は終了する。浦和のパワーあふれる個人技の目立った試合であった。（近藤嘉明）

久留米工大附 30（15－7、15－7）14 桜台

得	【久工大】		【桜台】	得
0	井上	GK	野坂	0
0	坂本	GK	小塚	0
4	田中	FP	加藤	6
9	甲斐	FP	津兼	5
0	松尾	FP	山田	2
0	小池	FP	池山	0
7	村田	FP	澤田	0
7	石丸	FP	山下	0
0	大坪	FP	塩坂	1
1	誉田	FP	長谷川	0
2	嶋田	FP	村田	0
0	山口	FP	大津	0
30	(3)	PT	(1)	14

（審・中根、秋山）

○…昨年度優勝校の久工大附と地元愛知代表桜台との一戦は、立ち上がり堅さのみられる桜台に久工大附は、両サイドとロングによって連続3得点をあげる。その後は、桜台にも動きが軽くなり加藤、津兼の連続4得点で一度はゲームの主導権を手にするも10分までであった。久工大附はその後、桜台のミスから速攻につなげる得点とポストでの加点で15分間に12点をあげ一気に引き離す。桜台も時折点を取るもキャプテン塩坂の15分負傷欠場により歯車が崩れてしまい惜しい試合展開となる。

後半気を取り戻した桜台も加藤のロングとディフェンス力で互角に戦うも、10分以後再び自陣のミスと久工大附の速い攻撃に合い、失点を許すことで試合を一方的なものにした。でも桜台の最後まで粘りのあるプレーと一年生加藤のロングシュートは試合を盛り上げた。久工大附の高さと速さの攻撃に目を見張るものがあり選抜大会二連覇への道を一歩一歩確実に進めていると言える試合内容であった。（永田裕孝）

興南 21（15－12、6－5）17 下松工

得	【興南】		【下松工】	得
0	平良康	GK	中光	0
0	比嘉薫	GK	松村	0
0	宮城守	FP	白坂	3
5	具志堅	FP	平野	8
0	平良正	FP	長浦	1
4	宮城一	FP	中川	2
1	比嘉敏	FP	坂口	1
2	上原昌	FP	久本	2
4	上原雅	FP	古賀	0
5	玉城	FP	松本	0
		FP	前田	0
		FP	小林	0
21	(5)	PT	(2)	17

（審・川島、森）

○…スローオフ後、下松工3番平野のスカイで得点があった後は

両チームとも雑な攻撃で10分間無得点という硬直状態が続いた。中盤、下松工6番坂口、3番平野のロングシュートが入り流れを握むかと思われたが、下松工4番長浦3番平野の退場により、興南もペナルティスロー、6番宮城の速攻と連続得点する。その後は一進一退の攻防が続くが10番玉城がマンツーされながらも他の5人が粘り強く攻撃した興南の6－5の1点リードで前半を終る。

　後半に入り、スピード、コンビネーションに勝る興南は、6番宮城の速攻、10番玉城のペナルティなどで連続加点し、完全に自分達のペースを摑む。下松工もシュートを放つが興南キーパーの好守に阻まれ得点を上げることが出来ない。15分過下松工はダブルマンツーをし興南のリズムを乱しにかかる。下松工もようやく攻撃のリズムをつかみ、3番平野、2番白坂の速攻、ロングシュートで逆襲にかかるが、後半立ち上がり、10分までの8失点が重くのしかかり得点差を縮めるまでに至らない。結局21－17で興南の勝利で終える。両チームとも後半に入り、よく走りスピーディーな試合が展開された。（平松学）

此花学院　25（11－6　14－3）9　北陸

得	【此花】		【北陸】	得
0	丸山	GK	城地	0
0	岡田	GK	竹沢	0
1	君島	FP	大久保	2
5	吉川	FP	沢崎	2
8	西岡	FP	竹山	1
5	泉	FP	福村	1
0	江崎	FP	川上	3
1	金沢	FP	小野田	0
5	平山	FP	宮川	0
0	松永	FP	斉藤	0
0	間戸場	FP	松田	0
0	藤本	FP	増田	0
25	(3)	PT	(0)	9

（審・中根、秋山）

〇…2回戦ペナルティコンテストで勝ち進んだ北陸は、此花の個人技の冴える君島、西岡に対し、マンツーマン・ディフェンスを試みた。

　しかし、北陸のディフェンスの幅が広くなり、此花はカットインによる攻撃、また、サイドシュートなどで得点を重ねた。それに対し北陸は、此花のキーパー丸山の好守に阻まれ得点を上げることができず、前半は14－3で此花がリードした。

　後半に入り、北陸はポストプレー、サイドシュートで善戦するが今一つ得点を重ねることができず終始此花のペースとなり、結果25－9で此花の勝利となる。（菅原弘勝）

▽準決勝

久留米工大附　27（14－13　13－13）26　浦和実

得	【久工大】		【浦和実】	得
0	井上	GK	石井	0
0	坂本	GK	長山	0
0	田中	FP	新井	12
16	甲斐	FP	清田	3
0	松尾	FP	猪瀬	6
0	小池	FP	高橋	3
4	村田	FP	滝沢勝	0
2	石丸	FP		
1	大坪	FP	滝沢哲	2
4	誉田	FP	二階堂	0
0	嶋田	FP	田島	0
0	山口	FP	鈴木	0
27	(1)	PT	(1)	26

（審・斉藤、千野）

〇…試合開始直後、久工大附の誉田がポストシュートを決め1点先取、その後も清田のロングで得点、試合の主導権を握るかと思われたが、浦和は新井の打点の高いロングシュート、猪瀬、清田の切れのよいフェイントで序盤戦は浦和のリードで試合が進みこのまま前半終了かと思われたが、前半終了1分前に久工大附は2点たて続けに取り、前半は13－13の同点で終了。

　後半も、浦和の新井がロングで決めれば久工大附の甲斐が負けずに決め一進一退の攻防が続く、後半中盤、浦和は速攻、ロングと連得し3点リード、このままいくかと思われたが、久工大附は粘りをみせ後半終了10秒前に同点に追いつく、これで試合終了かと思われたが久工大附の甲斐が5秒前に得点し、劇的な幕切れとなった。（尾崎年英）

此花学院　25（11－6　14－7）13　興南

得	【此花】		【興南】	得
0	丸山	GK	平良康	0
0	岡田	GK	比嘉薫	0
8	君島	FP	宮城守	0
2	吉川	FP	具志堅	3
8	西岡	FP	平良正	0
4	泉	FP		
0	江崎	FP	宮城一	0
0	金沢	FP	比嘉敏	3
2	平山	FP	上原昌	0
1	松永	FP	上原雅	1
0	間戸場	FP	玉城	6
0	藤本	FP		
25	(6)	PT	(2)	13

（審・川島、森）

〇…スピード感覚と力強さあふれる両チームの戦いは、此花学院のエース君島と西岡の得点で興南を圧倒するが、中盤興南玉城の連続3得点と、此花学院吉川の速攻と、相手ディフェンスミスから得た3つのPTで点の取り合いとなった。

　しかし、前半残り5分は、此花学院のディフェンスの粘り強さから、興南の動きを止め、加点を重ねる。

　後半は、お互いの動きを読み取ったディフェンスで始まり点の動きも止まったが、ロングシュートと速攻に優る此花学院が着実に加点し興南を引き離す。興南もサイドシュートに加えロングシュートがあれば互角の戦いとなったであろう。

　興南のキーパー比嘉の落ち着いた動きと守りが、点差を感じさせない試合内容であった。（永田裕孝）

▽決勝

久留米工大附　20（8－7　12－8）15　此花学院

得	【久工大】		【此花】	得
0	井上	GK	丸山	0
0	坂本	GK	岡田	0
3	田中	FP	君島	5
4	甲斐	FP	吉川	3
0	松尾	FP	西岡	3
0	小池	FP	泉	2
4	村田	FP	江崎	0
4	石丸	FP	金沢	1
1	大坪	FP	平山	0
3	誉田	FP	松永	1
0	嶋田	FP	間戸場	0
1	山口	FP	藤本	0
20	(1)	PT	(0)	15

（審・川島、森）

〇…優勝候補同志の対戦となった男子決勝は久工大附のスローオフで始まった。

　先制は此花4番西岡のミドルシュート、5分、相方ともディフェンスの壁が厚く緊迫したゲーム展開となった。しかし、久工大附のエース3番甲斐の好リードで18分9－5とリード、結局12－8で久工大附リードで前半を終了する。

　後半の立ち上がり久工大附7番の石丸の連続得点で此花をジリジリと引き離していった。

　此花も再三シュートをねらうが、久工大附の高いディフェンスで得点に結びつかず、ややあせりが見られ、そのスキを久工大附が多彩な攻撃で此花の追撃を振り切って2年連続の優勝を決めた。（木和田浩央）

女子

▽1回戦

熊本市立（熊本）16（8―7、8―8）15 昭和学院（千葉）

【昭和】	得	【熊本】	得
神尾（GK）	0	松野（GK）	0
宮内（GK）	0		
河本	0	鋤崎	0
甲斐	10	裴川	5
斉藤	1	清村	0
太古	0	藤本	0
小松崎	3	上村	10
須賀	0	笠井	0
石毛	0	福島	1
岡村	0	米野	0
斉藤	1	金井	0
管田	0	辻浦	0

（FP審・斉藤、千野）

16　（0）　PT　（9）　15

○…熊本市立は3―3の同点から8番福島の速攻、6番上村のロングシュートで2点リードし試合を優位に進めた。しかし、昭和学院も粘り強く熊本のやや甘いディフェンスをつき、2連続ペナルティーを誘い5―5の同点とした。熊本はロングシュートを主体にした攻撃で終始試合の主導権を握り、前半を8―7の1点リードで終えた。

後半に入っても熊本はロングシュートを中心にした攻撃で、昭和の巧みなポストプレーを防ぎ1点差で1回戦を勝ち抜いた。（梶田）

緑ケ丘商（愛知）17（10―1、7―7）8 高松商（香川）

【高松商】	得	【緑ケ丘】	得
真鍋（GK）	0	近藤（GK）	0
		川本（GK）	0
佐々木	0	後藤	4
山田	0	矢野	7
原田	5	近藤	5
堀	0	三浦	1
川田	1	阿部	0
山下	2	中村	0
三木	0	伊藤	0
佐伯	0	加藤	0
佐々木	0	古川	0
		武藤	0

（FP審・佐分、大塚）

17　（3）　PT　（2）　8

○…高松商は一年生中心ということもあってか立ち上がりから堅さとミスが目立ちチャンスを作ることができない。それに対して、緑丘商は前半10分あたりから、パスカットからの連携のとれた速攻で得点を重ね前半は10―1で終了した。

後半に入って緑丘商は、シュートミスが目立ち歯車がかみ合わず思うように行かない。その中で高松商はポストプレー、速攻でよく追い上げたが前半の大差を挽回するまでには至らなかった。全体としては、緑丘商の3番左利きの矢野を中心としたセットプレー、速攻が印象的であった。（中野正彦）

静岡城北（静岡）13（7―4、6―2）6 上磯（北海道）

【上磯】	得	【城北】	得
吉野（GK）	0	尾焼津（GK）	0
長谷川（GK）	0	永野（GK）	0
横山	0	鈴木	3
栃木	2	大金	1
工藤	2	大坪	0
小山田	1	増田	3
藤本	0	出木	1
狩野	0	山下	5
山中	1	望月	0
池田	0	大橋	0
相馬	0	松永	0
川上	0	川口	0

（FP審・瀬井、岩永）

13　（1）　PT　（3）　6

○…前半開始から静岡城北の早い動きに上磯のディフェンスがついていけず、そのスキをうまくついた城北が多彩な攻めで確実に加点していくのに対し、上磯は5分過ぎから12分間無得点で終了間際に3点を追加したが城北の7―4のリードで終った。

後半は両チームともミスが目立ち盛り上がりのかけた立ち上がりとなったが、5分頃から城北の攻めが速攻を主体となり動きが活発となってからは一方的に攻め出して加点し、上磯は4分にパスカットよりシュートと、16分に速攻よりペナルティーとなり加点したにすぎなかった。この試合は城北の速い動きに対して、上磯の粗いディフェンスがついていけずに終ったもので、両チームとも今後に多くの課題を残したゲームであった。

粉河（和歌山）14（7―6、7―5）11 大曲農（秋田）

【大曲農】	得	【粉河】	得
佐藤礼（GK）	0	田村（GK）	0
大山（GK）	0	荊木（GK）	0
小松利	4	山本	0
伊藤	0	森下	0
小松て	4	青田	3
小山	0	谷口	3
斉藤	0	寿糸	1
後藤	0	石本	3
佐藤美	2	藤本	3
高田	1	里	0
新田	0	目裏	1
深沢	0	山崎	0

（FP審・小林、高橋）

14　（2）　PT　（2）　11

○…立ち上がりから両チームともに激しいディフェンスで警告もよく出た。従ってフリースローからの展開が多くなったが決め手に欠ける内容であった。先取点は粉河が相手のパスミスから速攻につなげ2得点をあげる。すかさず大曲農もPTを得てつめ寄り、小松（利）、高田のロングシュート、小松（て）のサイドシュートで追いつき一進一退の内容で前半を終了する。

後半7分までに大曲農も得点を重ね9―9に追いつくも、ここまでで以後18分まで粉河の連続5得点を許す。これは大曲農の単調なシュートと粉河のシュートカットが目をひいた。残り2分大曲農4番小松（て）のカットプレー、速攻と一人気を吐いたプレーで最後まで試合を盛り上げた。（永田裕孝）

彦根南（滋賀）18（9―5、9―8）13 小禄（沖縄）

【小禄】	得	【彦根南】	得
（GK）		福澤（GK）	0
上江洲（GK）	0	田中（GK）	0
山里	5	長屋	1
佐久川	0	中西	3
宮里	1	亀岡	6
上原み	0	大久保	5
照屋	1	草野	2
新城	1	西田	0
石川	1	松崎	1
上原ど	0	松宮	0
高良	4	島田	0
下地	0	木瀬	0

（FP審・川島、森）

18　（4）　PT　（2）　13

○…前半は、スピードに勝る彦根南が、やや堅さの見える小禄の

ミスに乗じ速攻、カットイン、ポストプレーなど多彩なプレーで着々と加点した。小禄は長身高良を中心にロング、ポストプレーで反撃するが単発的なシュートが多く、じりじりと差が開くかに見えたが、彦根南も得点チャンスでもラインクロスなどのミスが続き、9−5で終了した。

後半は堅さのとれた小禄の反撃で始まったが、ブロックプレー、ポストプレーとよくコンビのとれた彦根南のペースはくずれず7点差まで開いた。終盤小禄は高良のロングシュートなどで4点差まで追い上げたが、全体にミスが多く結局18−3で終了した。（細井和夫）

水海道二（茨城） 16（9−5, 7−7）12 仁愛女（福井）

得	【水海道】		【仁愛女】	得
0	小口	GK	冨田	0
0	近沢	GK	由川	0
0	富山い	FP	朝倉	0
2	森	FP	片岡	1
3	太田	FP	石田	5
7	宮川	FP	藤田	4
2	野添	FP	藤川	0
1	鈴木百	FP	北川	2
0	富山真	FP	松田	0
1	磯山	FP	牧野	0
0	鈴木恵	FP	駒野	0
0	遠藤	FP	中村	0
16	(1)	PT	(2)	12

（審・小林・高橋）

○…仁愛女のスローオフで試合開始、立ち上がり2分ペナルティースローで仁愛女が先制したが、すかさず水海道第二5番宮川のステップシュートで同点とする。しかし、水海道第二のパスミスから仁愛女の速攻が決まり得点を重ねた。水海道第二も宮川のロングシュートが決まりだしチーム全体の動きがよくなった。

後半に入って互いに小さなミスが続いたが、水海道第二が波にのり得点を重ねた。10分過ぎ、水海道宮川の退場により仁愛女連続して得点をし善戦したが、水海道第二が逃げきり勝利を手にした。（伊藤文彦）

山陽女（広島） 28（13−2, 15−1）3 釧路星園（北海道）

得	【山陽女】		【星園】	得
0	笑迫	GK	田中	0
0	清水	GK	矢田	0
1	弘中	FP	畑村	1
0	相川	FP	高辻	1
7	池田	FP	桜井	0
2	川本	FP	鎌田	0
10	本西	FP	朝田	0
2	大林	FP	高橋	1
1	河井	FP	大根田	0
4	西村	FP	斉藤	0
1	安部	FP	麻野	0
0	森	FP	花沢	0
28	(6)	PT	(0)	3

（審・細井・板倉）

○…立ち上がりからスピードに勝る山陽女は、30秒池田のロングシュートで先行し、サイドからのカットインプレー、相手ミスからの速攻等多彩な攻撃で着々と引き離していった。星園の反撃は15分7番高橋のサイドシュートと18分2番畑村のわずか2点にとどまり前半を13−2で折り返した。

後半に入っても山陽女は、攻撃の手を緩めることなく加点し続け文句なく勝利を収めたが、最後まで精一杯のプレーを続けた星園には好感が持てた。

暁（三重） 14（5−4, 9−4）8 郡山女（福島）

得	【暁】		【郡山女】	得
0	矢田	GK	上遠野	0
0	野島	GK	永井	0
2	三木	FP	佐藤	3
3	日沖	FP	大原	1
6	山本	FP	会田	1
0	堀内	FP	高橋	2
0	荻須	FP	大野	0
2	野田	FP	大和田	0
0	菊川	FP	小川	1
1	前田	FP	松尾	0
0	早川	FP	宗像	0
0	小林	FP	須藤	0
14	(2)	PT	(0)	8

（審・後藤・島田）

○…両チームともに立ち上がりボールが手につかずミスの連続であったが、郡山女のディフェンスのつめの甘さから出るPTで暁の先取点となる。その後郡山女も2番佐藤、4番会田のシュートで逆転するも追加点がなく、逆に暁にPT、ボールカットを許し再び逆転される。その後は4−4まで同じような展開であったが、14分以降暁は郡山女の2番佐藤にマンツーマンをかけると点はピタリと止まったが暁も1点の追加点のみにとどまり内容に欠けた。

後半立ち上がり、郡山女は20秒同点に追いつきゲームを振り出しにもどしたのもつかの間で、10分まで追加点なく逆に暁に6点の追加点を許す、特にこの6点のうちでも左腕の白沖のシュートは良かった。その後は一進一退の内容であり後半の立ち上がりで勝負の分かれ目があったようである。（永田裕孝）

佼成学園（東京） 14（6−3, 8−6）9 国分実（鹿児島）

得	【佼成】		【国分実】	得
0	加藤	GK	吉元	0
0	高橋	GK	米平	0
2	北島	FP	斜木	3
1	大場	FP	今吉	0
6	長良	FP	古賀	0
1	渡部	FP	松元	2
0	渡辺	FP	末永	2
2	網野	FP	西田	1
0	鈴木	FP	山元	0
2	松本	FP	杉園	1
0	山本	FP	福永	0
0	服部	FP	児玉	0
14	(2)	PT	(1)	9

（審・北山・大原）

○…両チームともよく洗練された女子チーム同志の対決となった。開始早々、佼成学園女4番長良のロングが決まり先行した。一方、国分実業はサイドシュートで活路を見出し10分過ぎまでは3−2と逆にリードして試合を進めた。しかし、15分過ぎに国分実業が2人の退場者を出し、その間に一気に4点を連取してムードを盛り返し6−3と佼成学園女が逆転して前半を終了。

後半に入っても全員がよく動き、リズムのある攻撃を展開する佼成学園女が着々と加点し、5点差として余裕のある試合とした。長良を中心に国分実業のディフェンスがやや甘くなったスキをすかさずついたのが勝因であろう。国分実業も最後まで反撃したが、得点の糸口がサイドシュートに集まってしまったのは苦しく、上からの攻撃をもっと望みたかったのが惜しまれる。

▽2回戦

小松市女(石川) 17 (6-6, 11-8) 14 熊本市立

得	【小松】		【熊本】	得
0	大間	GK	松野	0
0	川北	GK		
3	丹後	FP	鋤崎	4
8	和田	FP	芸川	3
1	野田	FP	清村	0
2	木村	FP	藤本	1
2	竹田	FP	上村	4
1	米田	FP	笠井	0
0	福田	FP	福島	2
0	松本	FP	米野	0
0	藤	FP		
0	今	FP		
17	(3)	PT	(2)	14

(審・後藤 島田)

○…前半、順調なペースで得点を加えていった小松市女に対し、熊本市立は残り5分から追い上げ一進一退の息づまる攻防を繰り広げ、前半同点で終了した。

後半に入っても同様のゲーム展開で進み、中盤に熊本市立が2人退場となりリードを許したが、終了間際には両チームとも点の取り合いとなった。小松市女の3番和田のミドル対熊本市立の2番鋤崎、3番芸川、6番上村を中心とした多彩な攻めとの試合で見ごたえのある好ゲームで、特に上村の要所を押えたリードは見るものがあった。(松本誠一)

緑丘商 17 (7-4, 10-7) 11 東宇治(京都)

得	【緑丘商】		【東宇治】	得
0	近藤良	GK	大味	0
0	川本	GK	荒賀	0
0	後藤	FP	谷口	4
11	矢野	FP	安川	0
4	近藤里	FP	森	1
0	三浦	FP	玉木	5
1	阿部	FP	本田	0
1	中村	FP	富岡	1
0	伊藤	FP	吉田	0
0	加藤	FP	平岡	0
0	古川	FP	臼井	0
0	武藤	FP	津田	0
17	(6)	PT	(0)	11

(審・杉本 杉山)

○…前半立ち上がり、緑丘商がペナルティで得点し14分経過までにはペナルティ4本などで6-1と緑丘商がリード。その間両チームともディフェンスが乱れていて警告が多かった。前半残り5分からは緑丘商のペナルティ1本だけの得点に対し、東宇治はサイドシュート、カットインなどで3得点し前半を7-4とし後半へつないだ。

後半は前半に比べ両チームとも落着いたゲーム運びでスタート。東宇治は、2番長身の谷口を中心にパスワークし、カットインで狙うといった攻撃で着実に加点し、後半9分には10-9の1点差に追いつく。しかし緑丘商は前半とは違ってポストプレーを使った攻撃展開で東宇治をつき離す。残り2分半、14-11から連続3得点し17-11で緑丘商が勝利をおさめた。東宇治にとっては前半のペナルティでの失点が悔まれる試合といえる。(里田基弘)

熊毛北(山口) 12 (6-5, 6-3) 8 静岡城北

得	【熊毛北】		【城北】	得
0	中川	GK	尾焼津	0
		GK	永野	0
0	山本	FP	鈴木	1
2	藤村	FP	大金	3
3	倉益	FP	大坪	0
7	渡辺	FP	増田	0
0	梅田	FP	出木	1
0	三牧	FP	山下	3
0	竹内	FP	望月	0
		FP	大橋	0
		FP	松永	0
		FP	川口	0
12	(5)	PT	(1)	8

(審・横井 岩永)

○…開始早々に熊毛北がペナルティスローで先制し、続けて速攻、ロングと5分過ぎまでに3点連取し、ゲームの主導権を握るかと思われたが、静岡城北もようやく12分に初得点すると追撃が始まるも今一歩のところで1点リードを熊毛北に許し前半を終了。

後半に入り、5分間は両チームとも反則、ミスが多く得点がなかったが、熊毛北が先に得点すると静岡城北も追いすがる展開で中盤に入る。9分、10分と続けて熊毛北がペナルティをはずす間に、静岡城北着々と加点し、11分には8-8の同点に追いつく緊迫したゲームとなるが、ここから熊毛北が相手ミスを速攻につなげペナルティスローをさそって突き離し、さらにダメ押しとも思われる3得点を加え、結局4点差で熊毛北が勝ちを収めた。一度は追いつきながらミスが出てしまった静岡城北にとっては残念な試合だったろう。それにしても全員一年生という熊毛北は大変楽しみである。(近藤嘉明)

栃木女(栃木) 22 (10-3, 12-3) 6 粉河

得	【栃木女】		【粉河】	得
0	吉村	GK	田村	0
0	山下	GK	前木	0
0	見目	FP	山本	0
4	渡辺	FP	森下	0
0	菅沼	FP	青田	1
9	相川	FP	谷口	0
0	福田	FP	寿系	0
1	桜木	FP	石本	3
4	中村	FP	藤木	1
4	名塚	FP	里	0
0	片柳	FP	日裏	1
0	藤沼	FP	山崎	0
22	(0)	PT	(2)	6

(審・川島 森)

○…立ち上がり栃木女が5番相川のフリースローのロングでまず先取、すぐに粉河も4番左の青田の回り込みで追いつく。2分に栃木女同じく相川のロングで2-1、その後5分間双方とも決め手を欠き無得点。しかし、8分から栃木女が相手ミスにつけこみ8分、9分、11分と3連取で6-2と差を開いた。その後粉河はやや集中力を欠き、ディフェンスに甘さがみられ、栃木女の速いパスワークにふられ前半10-3で終了。

後半に入っても栃木女のペースは衰えず、5番相川のロング、9番名塚のカットイン、3番見目のサイドシュートと多彩な攻撃で粉河を圧倒した。一方粉河は、6番寿系のロング、8番藤本のサイドシュートなどで反撃するも、栃木女のディフェンスの速いつめにシュートが単発になり、自分たちのペースをつかめないままに終った。(加藤照信)

名短大付(愛知) 10 (5-5, 5-2) 7 彦根南

得	【名短付】		【彦根南】	得
0	石川	GK	福澤	0
0	三浦	GK	田中	0
4	城		長屋	0
0	奥村		中西	1
3	高橋		亀岡	0
0	清水		大久保	3
1	三浦		草野	1
0	山下		西田	0
2	安田		松崎	2
0	菊川		松宮	0
0	藤田		島田	0
			木瀬	0
10	(0)	PT	(1)	7

（FP 審・島田、後藤）

○…開催地校であると同時に優勝候補の名短付は、一回戦で沖縄代表の小禄を破った彦根南と初戦を迎えることになった。両チームともキャプテンを中心としたスピードのある好チームであるが、序盤戦は両チームともに堅い守りを見せ、試合開始5分まで両チームとも得点できず緊迫したゲームがつづく。名短付は安田がサイドシュートを決め主導権を握ったが、彦根南も切れのよい攻撃で食い下がり前半は5－5の同点で終了。

後半戦も開始早々名短付・高橋のロングシュートで1点リード、その後彦根南も粘ばりをみせるが、今一つ決め手に欠け10－7と名短付の勝利となる。（尾崎年英）

水海道二 13（6－3、7－1）4 今治南（愛媛）

得	【水海道二】		【今治南】	得
0	小口	GK	馬越	0
0	近沢	GK	関野	0
1	富山		井原	1
2	森		東	0
1	太田		白石	1
3	宮川		藤原	0
4	野添		河上	1
0	鈴木百		島生	1
0	富山		吉本	0
2	磯山		岸下	0
0	鈴木恵		長谷部	0
0	遠藤		宮武	0
13	(1)	PT	(1)	4

（FP 審・工藤、川合）

○…今治南の鳥生のペナルティシュートで先制、その後、サイドシュートで点を加えたが、水海道二は宮川のステップ、速攻で逆転に成功6－3とリードする。今治南は、チームプレーで多彩な攻撃をするが今一つ得点につながらず苦しいゲームとなる。

後半に入り、水海道二は、速攻、ポストプレーで次々に得点を重ねる。一方今治南は、水海道二の固いディフェンスで得点を上げることができず一方的な試合となる。（菅原弘勝）

山陽女 14（8－5、6－8）13 暁

得	【山陽女】		【暁】	得
0	笑迫	GK	矢田	0
0	清水	GK	野島	0
3	弘中		三木	3
0	相川		日沖	5
6	池田		山本	1
1	川本		堀内	1
2	本西		荻須	1
2	大林		野田	2
0	河井		菊川	0
0	西村		前田	0
0	安部		早川	0
0	森		小林	0
14	(2)	PT	(3)	13

（FP 審・板倉、細井）

○…試合開始1分、山陽女が持ち前の速攻で先制すれば、晩も速攻で反撃、ペナルティを得、これをキャプテン三木が決める。まずは互角の滑り出しといったところ。しかし、山陽女ディフェンスはつめがよく、晩フェイントで切り込もうとするがなかなか割り込めない。この間、山陽女は4連続得点をするなどスピード豊かに攻撃を繰り広げた。ゲーム模様が変ったのは10分、やっとの思いで晩3番日沖がステップシュートを決めたあたり。山陽女は有利に展開しているにもかかわらずシュートミスが多くなり、晩を引き離すまでは至らず8－5で前半を折り返す。

後半になると一転して晩ペース。キーパー矢田の好守で勢いつき速攻、カットインなどで連続得点し、8分にはとうとう山本が速攻で同点シュートを決める。その後は一進一退の迫熱した試合となった。だが接戦では山陽女が一枚上、15分、16分とたて続けに弘中、池田がロングを決め2点差とした。晩は再三のチャンスをあせりからかミスが出てものにすることができず、最後に日沖がシュートを決めたが反撃もここまであと一歩のつめ寄りができず、14－13で惜しくも涙をのんだ。（渡辺貞彦）

宣真（大阪）8（4－3、4－4）7 佼成学園

得	【宣真】		【佼成】	得
0	鬼防坊	GK	加藤	0
0	諸井	GK	高橋	0
1	平川		北島	1
1	鈴木		大場	1
0	尾崎		長良	4
2	川村		渡部	0
0	道上		渡辺	0
3	内田		網野	1
0	溝渕		鈴木	0
1	岸間		松本	0
0	阪口		山本	0
			服部	0
7	(3)	PT	(0)	8

（FP 審・工藤、川合）

○…立ち上がり、宣真7番内田のサイドシュートがたて続けに2本決まり宣真ペースではじまった。5分には5番川村のカットインで3－0。佼成女は宣真の高いディフェンス陣にとまどったのか動きが悪く、4番長良、9番松本がロングシュートを放つも決まらず。8分佼成女2番大場の速攻、9分宣真10番岸間のカットイン、10分佼成女ペナルティ。中盤すぎから佼成女のディフェンス陣の速いつめで宣真の足が止まり、ミスが重なって10分間無得点。しかし、佼成女それを生かせず4－3宣真1点リードで前半終了。

後半、佼成女30秒にフォーメーションからペナルティで同点、3分長良のロングシュートで逆転、7分3番大場の速攻、12分8番鈴木がペナルティを誘い長良が決めて3点差と佼成女ペース。宣真はペースをつかめず単発ロングをキーパー加藤に好守され13分間無得点。このままいくかと思われたが宣真は14分7番内田のサイドシュートをきっかけに15分川村の速攻、16分鈴木のロングで同点、18分平川のステップシュートで逆転し、長良のロングシュートをキーパーが好守しかろうじて逃げ切った。（加藤照信）

▽3回戦

小松市女 17（6—7、11—4）11 緑ケ丘商

得	【小松女】		【緑ケ丘】	得
0	大間	GK	近藤良	0
0	川北	GK	川木	0
0	丹後	FP	後藤	1
2	和田	FP	矢野	5
2	野田	FP	近藤里	3
1	木村	FP	三浦	1
0	竹田	FP	阿部	0
1	米田	FP	中村	1
0	福田	FP	伊藤	0
0	松田	FP	加藤	0
0	藤本	FP	古川	0
0	今	FP	武藤	0
7	（1）	PT	（0）	11

（審・大原、北山）

○…3番和田を中心としたパワーのある小松と、3番矢野をゲームメーカーとし小枝を多用する緑商の対戦となった。立ち上がり、力で押す小松は、3番和田のロングシュートを再々放ち、キーパーの好守もあったがリバウンドをうまく取り得点を重ね、4—1とややつきもあって小松女がリードした。しかし、10分過ぎポスト、サイドのまわり込みと次第に持ち味を発揮した緑商が正確にパスをつなぎ着実に得点をあげ、前半7—6と緑商1点リードで終了した。

後半、緑商の攻撃のパターンを読み取られた。逆に小松3番和田の力強いロングシュートがたて続けに決まり、その勢いはとどまるところを知らず、15分過ぎには15—10とややゲームの主導権を握った。しかし、緑商もゲームを最後まで捨てることなくよく走りスピードのあるはつらつとしたゲームであった。（鈴木信明）

栃木女 16（9—3、7—3）6 熊毛北

得	【栃木女】		【熊毛北】	得
0	吉村	GK	中川	0
0	山下	GK		
0	見目	FP	山本	0
0	渡辺	FP	藤村	1
0	菅沼	FP	倉益	0
6	相川	FP	渡辺	5
0	福田	FP	梅田	0
1	桜木	FP	三牧	0
3	中村	FP	竹内	0
5	名塚	FP		
1	片柳	FP		
0	藤沼	FP		
16	（5）	PT	（2）	6

（審・大塚、板倉）

○…立ち上がりから迫熱した戦いが続いたが、10分あたりから熊毛北はミスが出はじめ得点することができない。一方、栃木女は5番相川を中心に速攻、カットイン、ロングなど多彩な攻撃で得点を重ね前半は9—3で終了した。

後半の先取点は、熊毛北の5番渡辺のロングであったが、栃木女の勢いは止まることを知らず、熊毛北の単発な攻めもあって終始栃木女のペースであった。

結局試合は16—6で栃木女はベスト4に駒を進めたが、熊毛北は全員一年生ということで若いチームだけに今後の活躍を期待したい。（中野正彦）

水海道二 12（5—6、5—4、1—1、1—0）11 名古屋短大付

得	【水海道】		【名短付】	得
0	山口	GK	石川	0
0	近沢	GK	三浦葉	0
0	富山	FP	城	3
0	森	FP	奥村	2
4	太田	FP	高橋	2
7	宮川	FP	清水	0
0	野添	FP	三浦優	0
1	鈴木百	FP	山下	4
0	富山	FP	安田	0
0	磯山	FP	菊川	0
0	鈴木恵	FP	藤田	0
0	遠藤	FP		
12	（0）	PT	（1）	11

（審・斉藤、千野）

○…序盤、名短付は動きが重くなかなかシュートできない。それに対し水海道はロングシュートで攻めたてるがキーパーに阻まれペースはスローテンポになる。動きの重かった名短付は時間とともによくなり、5分、7分にサイドシュート、9分には速攻を決めて3—1とする。10分過ぎあたりから両チームとも活気づき、水海道は太田を中心に上から攻撃、名短付は速攻、サイドシュートで得点を重ねるなど混戦模様となっていった。

後半に入ってもペースは変らず両チームとも決定打を欠き延長戦にもつれ込んだ。

延長戦に入ってからは、観衆も息をのむ熱戦となった。まず一歩リードしたのは名短付、ルーズボールを速攻へとつないで11—10とした。しかし、4分には水海道宮川のカットインシュートを許し再び同点、しかもこの時名短付は高橋が痛い退場。コートチェンジ後の延長戦後半の立ち上がりを5人で守らねばならなくなった。水海道は、すかさずここでサイド攻撃から7番鈴木が遂に逆転のゴールを決め、この試合初めて有位にたった。逆転されてからの名短付は、あせりからか気負いが目立ちシュートまでなかなか持っていけない。手に汗握る大熱戦も残り後1分30秒で大きな山場を迎えた。勝負は水海道がこのまま守り切るかどうかにかかってきたが、ここで9番磯山が退場となってしまう。名短付としては最後のチャンスを与えられた格好となった。必死で守る水海道ディフェンスをずらして、サイドから城がシュートを打ったがゴールを割れず、結局、セットでの迫力に上回った水海道が逃げ切った快心の試合であった。（渡辺貞彦）

山陽女 20（8—6、12—6）12 宣真

得	【山陽女】		【宣真】	得
0	笑月	GK	鬼防坊	0
0	清水	GK	諸井	0
1	弘中	FP	平川	4
0	相川	FP	鈴木	3
7	池田	FP	尾崎	0
2	川本	FP	川村	2
3	本西	FP	道上	2
5	大林	FP	内田	0
0	河井	FP	溝渕	0
2	西村	FP	岸間	1
0	安部	FP	坂口	0
0	森	FP		
20	（2）	PT	（1）	12

（審・細井、大塚）

○…立ち上がり、宣真のミスにつけ込み速攻で山陽女が2本連取。5分から10分宣真は3番鈴木のロングなどで得点、一方山陽女は4番池田、9番西村、5番川本

のロング、サイドシュートなどで得点、7—3と山陽ペース。しかし、その後宣真キーパの好守で山陽女の攻撃を食い止め、2番平川のステップ、速攻からのペナルティ、3番鈴木のロングと加点し、前半8—6と山陽女2点リードで終了。

後半宣真は、鈴木からの好アシストパスで川村がポストを2本決めれば、山陽女は速攻で2本取り返し一進一退。しかし、5分過ぎ宣真の足が止まり、単発ロングを山陽女キーパーが堅実に処理して、退場、ミスが重なって、山陽女が10分までに速攻、ロングで一気に6連取し15—8とした。宣真も平川のステップ、道上の回り込みシュートで追い上げるが、山陽女が相手ミスを確実に速攻に結びつけて逃げ切った。（加藤照信）

▽準決勝

小松市女 13（7—5、6—5）10 栃木女

得	【小松女】		【栃木女】	得
0	大間	GK	吉村	0
0	川北	GK	山下	0
5	丹後	FP	見目	0
2	和田	FP	渡辺	3
1	野田	FP	菅沼	0
1	木村	FP	相川	4
0	竹田	FP	福田	0
4	米田	FP	桜木	0
0	福田	FP	中村	3
0	松田	FP	名塚	0
0	藤本	FP	片柳	0
0	今	FP	藤沼	0
13	(0)	PT	(0)	10

（審・杉本、秋永）

○…地元緑丘商を敗り波に乗る小松市女に相対するは栃木女子と、ともに実力ある両チームの対戦となった。両チームとも立ち上がりからスピードある動きをみせ一進一退の攻防、先手を取ったのは栃木女、5番エースの相川がロングシュートを決め、続いて8番中村のサイドからのカットインプレーで得点をしペースをつかんだ。それに対して小松市女のエース3番和田が相手ディフェンスの激しいつぶしにあい思うように動くことのできない中、サイドプレーヤーの2番丹後とのコンビを取り、ポスト、サイドからのシュートで得点を重ね、13分後からは栃木女に得点を許さず前半7—5とリードして終了した。

後半に入って、激しい攻防が続く中、栃木女3番渡辺が気合の入ったロングシュートを苦しい姿勢からたて続けに決め、一端は同点にもち込んだが、小松市女7番米田も和田に替わって得意のアンダーからのステップシュートを含めて4得点をし大きく勝利に貢献した。後半も15分までは一進一退が続いたが、相手シュートをうまく速攻に結びつけることのできた小松市女が、前半のリードを生かして13—10で激しい攻防の迫力あるゲームをものにした。（鈴木信明）

山陽女 17（10—6、7—9）15 水海道二

得	【山陽女】		【水海道】	得
0	笑迫	GK	小口	0
0	清水	GK	所沢	0
1	弘中	FP	富山い	0
0	相川	FP	森	4
8	池田	FP	太田	3
0	川本	FP	宮川	3
3	本西	FP	野添	2
3	大林	FP	鈴木百	3
0	河井	FP	富山真	0
2	西林	FP	磯山	0
0	安部	FP	鈴木恵	0
0	森	FP	遠藤	0
17	(1)	PT	(0)	15

（審・大原、北山）

○…前半、水海道二のスローオフから始まり両チームとも固さが見え混戦模様となるが、先取点は山陽女4番池田のロングシュートとなる。山陽女はよく守り、よく走り、4番池田を中心に多彩な攻撃で得点を加える。水海道二は4番太田のロングシュート、3番森、6番野添の逆速攻などの得点で追いかけるが前半10—6で終わる。

後半開始、水海道二がペナルティスローの得点をきっかけによい雰囲気の中でゲームを運び、5分経過に山陽女4番池田の退場で攻撃リズムは乱れ、その間にサイドシュート、速攻と水海道二は得点を加え9—11となる。緊迫したゲームの中で水海道二は5番宮川のロングシュート、フェイントからのカットインなどで加点するが、山陽女もよく粘り、確実に得点を重ね、17—15と逃げ切る。（黒田基弘）

▽決勝

小松市女 17（8—7、4—5、1—1、1—1、1—2、2—0）16 山陽女

得	【小松】		【山陽女】	得
0	大間	GK	笑迫	0
0	川北	GK	清水	0
2	丹後	FP	弘中	1
8	和田	FP	相川	0
1	野田	FP	池田	7
3	木村	FP	川本	2
2	竹田	FP	本西	1
0	米田	FP	大林	5
1	福田	FP	河井	0
0	松田	FP	西村	0
0	藤本	FP	安部	0
0	今	FP	森	0
17	(1)	PT	(2)	16

（審・千野、大塚）

○…女子決勝は連覇を狙う山陽女と本大会7連続出場、3度優勝の実践を持つ小松市女の伝統ある両雄の対決となった。

試合は立ち上がりから両チームとも積極的な動きを見せ、予想通りの小気味よい試合展開となった。山陽女は、セットでのコンビネーションプレーやスピード豊かな速攻が持ち味、対する小松市女は3番和田を軸に攻守よくまとまっている。

経過は時間とともに追熱一進一退の内容となり、勝敗の行方は後半終了間近まで持ち込まれた。

同点の残り1分山陽女はポストプレーでペナルティスローを獲得、これを池田が確実に決め絶対有利かと思われたが、残り20秒、勝利へのあせりからかストーリングの反則をとられ小松に反撃の機会を与えてしまう。この好機に小松は速攻でつないで残り8秒野田が同点シュートを決め延長戦へともつれ込んだ。

延長戦では、両チームともやや固さがみられ試合の行方を決定づけるシュートがでないまま水入り、稀にみる大熱戦は第二延長へと舞台が移された。

試合は一つのミスも許されない緊張感で一杯である。次々と繰り広げられる超美技に観衆も酔った。高校生としては最高の試合内容である。

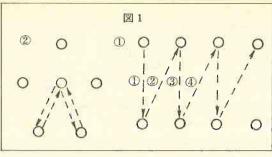
さて、試合は大詰め、同点で迎えた残り10秒、小松市女はフリースローを得た。最後はエース和田に望みを託し4人ブロックを前にシュート。このシュートがゴールを割り劇的な勝利で大熱戦の幕は閉じられた。

両チームの健闘に心おきない拍手を送りたい。（渡辺貞彦）

イオン・クンスト《ルーマニア》のハンドボール

58年度公認ハンドボール研修会より　第3報

59年2月5日

担当　日本女子体育大学　笹倉清則

イオン・クンスト（ルーマニア）のハンドボール

五八年度公認ハンドボールコーチ研修会より…第三報（担当　日本女子体育大学　笹倉清則）

59年2月5日

図1

昨日は、ルーマニアのハンドボールに対する考え方、選手養成について話しました。

本日は、ハンドボールの基本的なものを説明します。

これは、今から20年前にやっているものです。一列に並んで、図①の様にパスをします。この様な簡単な練習は皆さんすでに御承知のことと思います。

しかし、この様な簡単な練習は、技術向上には役立たないのであります。

そこで我々は、もう少しハンドボールに近い他の練習方法を考えました。どの様な動きを取り入れれば、効果のあがる練習になるかを考えました。

ハンドボールでは、オフェンスとディフェンスが半分づつあります。オフェンス、ディフェンスとでは技術、方法とも異なります。

次に、オフェンス、ディフェンスの際にどの様な局面をとるかを考えてみました。その結果、表1の様にオフェンス、ディフェンスとも四つの局面が考えられました。

この様にオフェンス、ディフェンスともに技術の方法も異なっています。

練習の際、あまり簡単すぎると、攻防ともに、効果のないものになります。その為、練習の際は、より高度で成果の上がるものを考えます。

これは、日本でも練習すると思いますが、図2のように先頭の人(A)が、前の人(B)にパスをしてその方向に走っていき後ろに並びます。しかし、この様な練習だけでは効果はありません。これからスライドによって説明します。

その前に、今から私が説明するのは真新しいことではなく、すでに皆さんが御存知の事が多いと思いますし、すでにどこでもやっていることと思います。私は、いつも他の国で講習をする時、ルーマニア人の考え方、技術の練習方法が、他の国々と違う為、私達の考え方を理解してもらった上で、自分達でより適した良い方法を使うことでより良くなると思います。

昨日と一昨日、日本リーグの試合を見て、試合前の各チームのアップが大変良くうれしく思いました。日本人は志気を高める為に、とても大きな声（エイ、ヤー）を出していました。しかし、残念な事がありました。それは、図3の様な三角パスの練習で皆んなゴールエリアに自由に出入りしていました。試合中には、侵入してはいけないエリアなので、アップの時でも守るべきです。私は、いろいろな場面においても、常に

図2

B　A

表1

At	Ap
F_I＝CA	F^I＝Re
F_{II}＝CAS	F_{II}＝ZTe
F_{III}＝Ovg	F_{III}＝Ovg
F_{IV}＝A System	F_{IV}＝AP. in. System

攻撃と防御の局面

オフェンス	ディフェンス
1. 1次速攻	1）自分のポジションに戻る
2. 2次速攻	2）時に応じた防御の仕方
3. 組織攻撃	3）組織的防御
4. 攻撃の型	4）防御の型

図3

三角パス

ルールは守らなければならないと思っています。

それでは、今から攻撃方法について話します。

その前に、もう一度言いますが、今回、私の持ってきた技術の練習方法は新しいものはありません。しかし、古い方法でも成功します。

先攻（トップ）プレーヤー一人の速攻

（図―a）、これは、速攻の一番簡単な方法です。一人のプレーヤーしかいません。サイドプレーヤーが自分のゾーンから走り、GKからボールをもらいシュートします。

先攻（トップ）プレーヤー二人の速攻

（図―b）、これは、二人のプレーヤーがサイドを走り、一人がGKからパスをもらい、そのプレーヤーがもう一人にパスをします。皆さんよく御存知のことと思います。ルーマニアのナショナルチームでもやります。試合終了10秒前という時に、得点は18対18で、二人のルーマニアプレーヤーがいて、一人が走り、一人がパスした時大きくそれてしまったのです。あの時、もっと上手にパスしていたら18対19になっていたかもしれません。大変残念でした。

（図―c）、次は二対一の時の速攻の攻め方としては、たくさんありますが、一番多く使われ、基本的なものを取り上げてみました。これは、昨日、一昨日の試合（日本リーグ）の時も使われていました。

これは、AとBが同時にスタートし、GKはAにパスを送ります。Aは平行に走っているBにパスをし、ディフェンスがBをマークした時にAにパスを返して、Aがシュートする方法です。

先攻（トップ）プレーヤー一人とセンタープレーヤー一人の速攻

（図―d）、これは、相手コートに走っていったBに、GKがパスしたいのですが、Bのまわりに多くの防御プレーヤーがいる点に直接パスする事が出来ず、近くにいるFPAにパスをして、AがBにパスを送りシュートするものです。右側のゾーンに書いてありませんが、ディフェンスがたくさんいるものと考えて下さい。

昨日の試合を見た時、日本のGKはパスを出す時、遠くに出しすぎることがありましたが、セーブした後、FPが近くにいる時は、長いパスでなく近くのプレーヤーにパスする方が良いでしょう。しかし、日本のチームはどのチームでもその長いパスを多くやっていました。どのチームも速攻の時にスピードを出して走っていました。

先攻（トップ）プレーヤー二人とセンタープレーヤー一人の速攻

（図―e）、これは、二人のプレーヤーが速攻に出て、GKからセンタープレーヤーがパスをもらい、そのプレーヤーがサイドを走っている二人のプレーヤーの一人にパスをして、そのプレーヤーがもう一人のプレーヤーにパスし、その一人がシュートするものです。これは、午後体育館で行ないます。先程言った通り、たくさんの人々に知られていることばかりでしたが、今度は特別な方法を説明します。もちろん試合の時、いろいろな方法があると思います。

試合の時、一次速攻のやり方だけで大丈夫でしょうか？　決してそうではありません。いろいろな

図B

図A

図D

図C

図F

図E

ボールの扱い方を練習しなければいけません。そこで他の方法を考えました。

（図―f）、これは一番簡単な方法です。攻撃に対して一番良い守りはセンターが一人いて七つの鎖をつないだ様に守れば良いのです。七つの鎖の中で一つの鎖が弱ければダメになってしまいます。逆に鎖の一番弱いところを攻めるという技術と練習の方法とならなければなりません。

実際の速攻の時に大切な事は、以下の様な事です。

1. GKがボールを早く確保すること。
2. プレーヤーがスタートを早くすること。
3. プレーヤーが猛スピードで走ること。
4. GKが早くトッププレーヤーにボールを出すこと。
5. トップでボールをもらう時後方からのボールに対してのキャッチ。
6. ドリブル。
7. シュート。

このシュートというのは、バックシュートでも、膝より下からのアンダーハンドシュートでもありません。この時のシュートは走り込むスピードでジャンプしてシュートします。時々、シュートする時倒れ込みシュートをしたりします。

図4

今までの説明は、速攻の際、走り出す先攻プレーヤーとセンターがいる場合のものでした。

いろいろな型の攻撃方法、防御方法があるわけですが、それを統合した上で一つの定型というものができるのです。それを標準（スタンダード）と言います。

図4、サイドプレーヤーが二人います。先程までのとは違い人数が多くなりました。そして、だんだん人が多くなるにつれてミスも多くなります。スピードを出して両サイドが走り、一人がGKからボールを受けとります。そして、もう一人にパスをして、そのプレーヤーはドリブルをしジャンプシュートします。

図5

しかし、私ががっかりしたことは、サイドプレーヤー同士のパスの際、何回もパスミスがあったことです。一人のサイドプレーヤーがもう一人にパスする時、走っている後方にそれたり、膝より低いパスになったりのミスが目立ちます。この様なチャンスにミスで得点出来ない時、逆に得点されることが多くありました。

一次速攻の為に私たちはいろいろやってきました。7人の鎖をもっと強化するために我々は子供の頃からハンドボールを教える時、このやり方で教えます。子供たちを教える時、もちろん皆んなが選手であるといって走らせます。そして、その中で、スタート時にはダッシュで走ること、とかキャッチミスやシュートミス、あるいは後方からのボールキャッチのことなどを注意しています。攻撃のチャンスは多いのですが、シュートミスが多い為得点に結びつけることができません。そこで、鎖のどの部分が弱いのかなど、その部分部分を知った上で練習、試合することが重要となります。

1日は、24時間です。我々は25時間練習はできません。24時間エネルギーを持っていることができる量は決まっています。我々はプレーヤーがより高いエネルギーを出すことを考えねばなりません。ですからあまりムダにエネルギーを使うことはない様にしなければなりません。日本人は皆んなムダはしませんね？

よく一次速攻の練習の際、この様な練習（図5）があります。これはセンターがボールを持ち、右のAプレーヤーは走りボールをもらってドリブルをし、Bプレーヤーにパスをして今度は、Bプレーヤーがドリブルをしてセンターにボールを渡し後ろに並び、それをくり返す練習です。しかし、この練習は、実際の一次速攻からは、はるかにほど遠いものです。

図G

図H

図I

一次速攻に必要なGKの練習方法

（図—g）、これはGKの基本練習です。GKはボールを受けるために左右に走らなければなりません。そして、GKはFPにパスを出します。この練習では誰が一番疲れると思いますか？　もちろんGKです。FPはGKのために協力します。しかし、GKの練習です。

私が考えていることが、わかってくれましたか？　私の講義が有意義なものになるためには、私の言っていることが理解できたかどうかを私に教えてほしいのです。私が西独へ講習会に行った時、よく、私はあなたから習いたいのだと質問がありました。本からもいろいろな著書からも勉強はできます。私の感性をも学んで頂きたいと思います。皆さんに1988年のオリンピックに備えて、私にコーチしてもらいたいと言われましたが私は日本人ではありません。あなたたちの中からコーチがでなければなりません。そういう意味から、一生懸命やってほしい、学んでほしい、習ってほしいと確信を持って申し上げます。私はルーマニアの考え方で言っています。日本の考え方はわかりません。そういう意味で受け取って頂けたら私は嬉しく思います。

もし、GKにパスの際にミスが多いとすれば、もっと投げる練習をしなければなりません。

（図—h）、先程のAとBのプレーヤーが走って体力が消耗したとします。これはGKだけが体力を消耗します。監督からGKにパスして、GKがAとBにパスします。日本人も知っているように射撃のジョン・ウェインのように非常に素早くやるようにさせます。GKはたいへん疲れますが、疲れている時に、正確にパスを出すように練習します。

（図—i）、これもGKの練習です。AとBのプレーヤーがGKからパスをもらい、Cプレーヤーがパスをもらい、どんどんGKにパスします。これは短距離走の練習にもなります。基本的にスタートの時目で見て耳で聞いて行ないます。試合の時はレフェリーの笛の音と回りの状況で判断します。練習の時は、笛だけでスタートするのではなく、監督の合図によってスタートする練習をします。

後方からのボールキャッチ練習

昨日の試合でもありましたが、後ろからくるパスに対して、うまくキャッチできない場合がありました。試合の時の攻撃は、55パーセント成功しなければなりません。ルーマニアのプレーヤーは日本人のようにスピードが出ません。だから日本人が試合中に何回攻撃しているか（攻撃回数）を調べるとおもしろいです。ルーマニアは50回位です。その

攻撃回数のうちの50パーセント成功しなければなりません。もしも、後方からのパスをキャッチする為に戻って正面でキャッチしたり、高いボールにジャンプしてキャッチしたりすると時間がかかります。そこで、このことについての練習が必要になります。

(図—j)、この練習はナショナルチームでもやります。一人一人のプレーヤーが右足を前に出して並びます。上体をうまく使って投げます。(図の上の型)

CとBのプレーヤーは動きません。Aは走ってBにボールをパスし、そしてまた走り、Bからボールをもらい次にCにパスをして、またCからパスを受けます。これは、とても簡単な練習ですが、今でもナショナルチームでやっています。そしてAプレーヤーはこれを20回繰り返します。これはボールの受け方、スピードの持久力に役立ちます。

もしも人数がたくさんいる場合は、次の二つの練習方法があります。

(図—k)、AがBにパスしBは走っているAにパス、次にCにパスし、Cは走っているAにパスするというように同じことを繰り返します。もし子供だったら一人か二人ではなく、もう少し人数を多くして、右と左の二ケ所で分けて行ないます。

(図—l)、AがGKからパスを受けBにパス、Aはシュートしてから、また走りながらボールを受け取りCにパスをして、またCからパスを受けシュートします。同じことを繰り返します。これは、試合での速攻の際、使わなければなりません。

図J

図K

図L

基本的なシュート練習

ハンドボールの一番基本的なものはシュートです。しかし、シュートする際、チャンスはとても少ないものです。アメリカのバスケットの選手は60回ゴールに入れます。昨日の試合を見た時、相手チームがシュートミスするのを皆んな喜んでいました。でも監督はそうではありませんでした。

(図—m)、これはジャンプシュートやランニングシュートの練習をする時、あまりに単純で申し訳ないのですが、今もルーマニアでもやっています。走る時に時間もかかりますし、エネルギーも使います。プレーヤーがボールを持っていてドリブルをしていきシュートをします。

(図—n、o)、もう少し難しくする為にセンターをおいた練習です。図—nは、センターからAとCがボールをもらいドリブルしてシュートするものです。図—oはBがAとCからボールをもらい、AとCにパスをしてAとCはドリブルしてシュートします。

(図—p)、今度はBからゴールエリア付近でボールをもらいドリブルなしでシュートしなければな

図M

図N

図O

図P

図Q

図R－①

R′－②

りません。これは、単にシュート技術練習だけでなく、プレーヤーがボールを持ってから、どれだけでシュートするかがわかるし、シューターがラインを見なくても踏まないでシュートする訓練になります。

（図－g）、Bプレーヤーが走ってAがBにパスし、BからAはパスをもらいドリブルしてシュートします。この練習は二人の先攻（トップ）プレーヤーの一次速攻でやった練習と同様の練習です。

次に二次速攻のことについて説明します。

これはディフェンスがいるため、GKは右サイドプレーヤーにパスできない時、左サイドにパスします。一人がGKからパスを受け、走っているサイドプレーヤーにFPからパスします。日本人は、この二次速攻が非常にうまいです。しかし、大変ミスが目立つのが残念です。

この二次速攻を使うために、このような練習をします。

（図－r）、スタートしてパスを受け、右側の人もスピードでスタートし、左側の人がパスをして、というように繰り返します。着物をつくる時、糸を織るような形で行ないます。

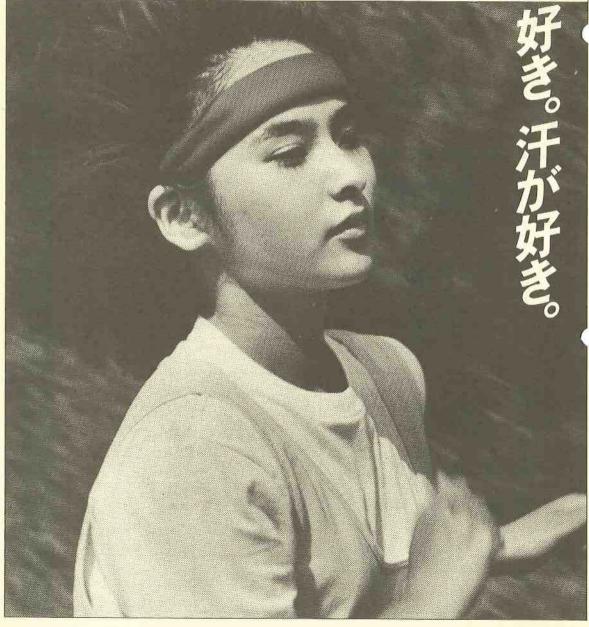
図S

（図－s）、これはAとBの間隔が大きくなります。ものすごいスピードを出して走りながら20メートルのパスをしなければなりません。単純そうにみえますが、大変ミスが多くでる練習です。ルーマニアのプレーヤーも4回ユニバーのチャンピオンと試合をした時、ものすごいスピードで走った時にこの練習をしていれば失敗はありませんでした。オリンピックの時も、この失敗が多かったです。長いパス一つで失敗しても銀メダルが銅メダルになってしまいます。世界チャンピオンとの試合で50試合をして7回同じ点数18対18で引き分けになりました。15試合中、1試合は10点差で負けました。

今言ったことが、ボールを受け取るのにどんなに大切かわかりました。

どうもありがとう。

終了12時。

スポーツが好き。汗が好き。
笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。
新日本製鐵

■５月～７月のハンドボールイベント■

★の試合は賛助会員は無料で見られます。

国際スポーツフェア'84春ハンドボール関連行事(代々木国立競技場)

5月2日(水)	18：00～19：10	男子：日本ナショナルチーム＊ユーゴ男子ナショナルチーム
5月3日(木)	11：00～12：00	日本・ユーゴナショナル選手によるハンドボール教室 出場希望者によるペナルティスローゲーム（賞品多数）
	12：00～14：30	関東チビッコハンドボール大会
	15：00～16：10	女子：関東学生選抜チーム＊ USA ナショナルチーム
	16：20～16：50	「夢のハンドボール」(トランポリン使用によるスカイプレイ)
	17：00～18：10	男子：日本ナショナルチーム＊ユーゴナショナルチーム

5月4日(金)～6日(日)	愛知県体育館	★第25回全日本実業団ハンドボール選手権大会（女子・参加チーム）10チーム
5月9日(水)～11日(金)	大阪市中央体育館	★第25回全日本実業団ハンドボール選手権大会（男子・参加チーム）10チーム
6月9日(土)～6月30日(土)	各地	★第９回日本ハンドボールリーグ（前期）(6／9，10，17，23，24，30)

ロサンゼルスオリンピック壮行試合

日時　７月15日（日）17：00～20：00　　会場　駒沢屋内球技場

壮行試合　18：30～19：40　　★男子ナショナルチーム　×　全日本学生選抜チーム

※オリンピック代表選手のサイン入り色紙、オリンピックマスコットマーク（イーグルサム）入りコーヒーカップ、絵皿、ペナントその他豪華賞品が当たる福引があります。

ロスへみんなで応援に行こう！

ロスオリンピックツアー（各コース35名）の追加募集をしています。Ａコース（41万円）５名、Ｂコース（40万円）12名、Ｃコース（53万円）９名。昼夕食および入場券の料金は別。入場券の費用は、Ａコース（３回分）約14,000円、Ｂコース（４回分）約21,000円、Ｃコース（７回分）約35,000円ですが、ほかに他の時間帯（日中、夜間）又は女子の試合も若干組合せます。希望があれば帰路ハワイ旅行も計画します。(申込方法等は次ページをご覧下さい。)

【Ａコース】

7月30日	Ａ・Ｃコース 成田空港出発17：20(JL62)
7月31日	日本＊東ドイツ　他２試合
8月1日	(女子)
8月2日	日本＊ユーゴ　他２試合 (Ａ･Ｃコースディズニーランド観光)
8月3日	(女子)
8月4日	日本＊ハンガリー　他２試合
8月5日	(女子)
8月6日	ロサンゼルス出発13：00(JL61)
8月7日	Ａコース成田空港着16：15

【Ｂコース】

8月6日	日本＊デンマーク他　２試合 (Ｂコース成田空港出発17：20JL62)
8月7日	(女子)
8月8日	日本＊ USA　他２試合 (Ｂコースディズニーランド観光)
8月9日	(女子)
8月10日	５位～12位決定戦
8月11日	１位～４位決定戦
8月12日	Ｂ・Ｃコース ロサンゼルス出発13：00(JL61)
8月13日	Ｂ・Ｃコース成田空港着16：15

【Ｃコース】（8月2日～8月13日）

日本協会の電話番号が４月２日から変更になりました。新電話番号03-481-2361・2362

賛助会はみんなの会だ

☆　何をするか？

オリンピックはどうなっている？
今年はどんな外国チームが来る？
日本リーグで強いのはどこか？
大学では？　高校では？
ハンドボールのビデオが欲しい。
そう。学校卒業後ハードボールから遠ざかってしまったがハンドボール界の様子を知りたいという人、もっとハンドボールのテクニックを研究したいという人、……。みんながハンドボールを見たり、やったりしてenjoyできればいいのです。

☆　会員になったら？

次のような特典があります。
①日本ハンドボール協会編月刊「ハンドボール」を毎月送ります。
②ハンドボールのイベントなどの情報をお届けします。
③日本ハンドボール協会主催の各種大会，日本リーグがただで見られます。
④ハンドボールビデオ，スコアブック，ルールブック，教程書等を特別価格でお頒けします。

☆　会費は？

①個人会員　1口　5千円　1口以上
4口（2万円）以上納付された方を特別個人会員として機関誌に公示し，希望により口数に応じた特典を差し上げます。
③法人会員　1口5万円　1口以上
6口（30万円）以上納付された方を特別法人会員として機関誌に公表し，希望により口数に応じた特典を差し上げます。
年会費は、財団法人日本ハンドボール協会の賛助会特別会計で処理され，賛助会の経費に充てた余剰は、強化及び普及事業に充当されます。

☆　入会の手続きは？

特別の郵便振替用紙（兼申込書）を本紙に綴じ込んであります。
ＯＢ会、会社や地方協会など団体で個人会員をまとめて納付される場合は、手数料として会費の10%を控除していただいて結構です。

特別賛助会員御芳名

（受付順太字は前号以降。敬称略。受付順）
※特別法人会員　㈱デサント　アシックス㈱　新日本製鉄㈱　㈱三陽商会　中村荷役運輸㈱　㈱三景　ジャスコ㈱　大同特殊鋼㈱　ブラザー工業㈱　日本ビクター㈱　大田印刷㈱　大崎電気工業㈱　日新製鋼㈱　㈱日立製作所栃木工場　**立石電機㈱**

※特別個人会員　滝沢　武（滝沢ハム・栃木市）　斎藤英四郎（日本協会・東京都）　荒川清美(同)　武田喜三(同)　大野金一(同)　竹内史衛（淡青社公認会計士事務所・東京都）　伊崎克己（群馬県）　黒田富郎（日本協会・日野市）　平岡秀雄（日本協会・東京都）　岡村千春（所沢市）　渡辺慶寿（日本協会・宇都宮市）　阿部二郎（同・茨城県）　滝口三郎（同・東京都）　北川勇喜（同・横浜市）　大西武三（同・茨城県）　中沢重夫（同・東京都）　金原至（同・氷見市）　林達夫（同・名古屋市）　正畠明雄（広島市）　川上整司（日本協会・狭山市）　村田弘（同・堺市）　岡前義春（同・府中市）　富永劭（同・水戸市）　安藤純光（同・日野市）　山本佐知子（ノタリーノ・東京都）　**嶋田新太郎**（氷見市）　**木下浩次**（名古屋市）　**田中滋章**（日本協会・名古屋市）　**小袋是郎**（福岡市）　**入江信太郎**（日本協会・茨城県）

ロスオリンピックツアー募集

企　　画　ISSA
〒104　東京都中央区銀座3-11-14
ダバクリエートビル２階
電話（03）542－0879
旅行主催　㈱東京航空サービス
（一般旅行業第93号）
旅行取扱い　㈱トラベルランドコーポレーション

参加申込方法

◉昭和59年５月20日までに左記ISSA内ロスアンジェルスオリンピック・ツアーまで申込金20万円を下記にお払込みのうえお申込み下さい。
振込銀行：第一勧業銀行西銀座支店
口　　座：普通口座１１２７０３４
口 座 名：ロスアンジェルスオリンピック観戦の旅

人から、まず人からの科学。バイオメカニクス。

7人は、鳥である。
7人は壁である。

はるか、上空での空中戦を展開する競技である。
鉄壁の、という形容がふさわしい競技である。
防御から攻撃へ、ひとつの動きで移っていく。
コートという名の戦場では、身につけるウェアも、
作戦のひとつなのだ。バイオメカニクスから生まれた
ハンドボールウェア ＜スカイハンド＞。
武器のような7人のために。

株式会社アシックス 商品その他お問い合わせは、株式会社アシックス消費者相談課まで。
〒564 大阪府吹田市豊津町2番3号 ☎(06)385-1111(大代表)

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二二九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五九年四月二十五日印刷 昭和五九年五月一日発行

都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(481)二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円(年間購読料三千三百円)